

(様式第 10)

28 病事務第 39 号
平成 28 年 10 月 4 日

厚生労働大臣 塩崎 恭久 殿

公立大学法人 名古屋市立大学
理事長 郡 健二郎 (印)

名古屋市立大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒467-8602 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
氏 名	公立大学法人 名古屋市立大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

名古屋市立大学病院

3 所在の場所

〒467-8602 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地 電話 (052) 851-5511

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<p>①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜</p>

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 消化器内科 2 肝臓内科 3 膵臓内科 4 呼吸器・アレルギー疾患内科 5 リウマチ科 6 循環器内科 7 内分泌・糖尿病内科 8 血液・腫瘍内科 9 神経内科 10 腎臓内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で

医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 消化器外科 2 呼吸器外科 3 心臓血管外科 4 小児外科 5 乳腺外科 6 形成外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑬麻酔科 ⑭救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科 2 病理診断科 3 臨床検査科 4	5	6
--------------------------------	---	---

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36床	床	床	床	772床	808床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成28年10月 1日現在)

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	257人	150.4人	407.4人	看護補助者	48.8人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	5人	12人	17人	理学療法士	12.4人	臨床検査技師	52.4人
薬剤師	43人	8.8人	51.8人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	3.6人	その他	0人
助産師	39人	0人	39人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	797人	27.2人	824.2人	臨床工学士	12人	医療社会事業従事者	15.8人
准看護師	0人	1.6人	1.6人	栄養士	0人	その他の技術員	27.4人
歯科衛生士	1人	0.8人	1.8人	歯科技工士	1人	事務職員	94.6人
管理栄養士	9人	2.4人	11.4人	診療放射線技師	42.8人	その他の職員	11.6人

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年10月 1日現在)

専門医名	人数	専門医名	人数
総合内科専門医	32人	眼科専門医	14人
外科専門医	36人	耳鼻咽喉科専門医	15人
精神科専門医	11人	放射線科専門医	19人
小児科専門医	20人	脳神経外科専門医	10人
皮膚科専門医	9人	整形外科専門医	24人
泌尿器科専門医	13人	麻酔科専門医	21人
産婦人科専門医	19人	救急科専門医	7人
		合計	250人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (城 卓志) 任命年月日 平成 24 年 5 月 1 日

平成18年～平成21年	院内医療事故防止検討会	委員
平成22年～平成23年	院内医療事故防止検討会	副委員長
平成22年4月～平成24年4月	医療安全管理室	室長 医療安全担当副病院長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	684.3人	4.6人	688.9人
1日当たり平均外来患者数	1749人	73人	1822人
1日当たり平均調剤数	1,399 剤		
必要医師数	173人		
必要歯科医師数	5人		
必要薬剤師数	23人		
必要(准)看護師数	406人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	367.85m ²	S造 一部SRC/RC造	病床数	14床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 [移動式の場合] 台数	245.97m ² 台	病床数	15床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床積 共用する室名	62.81m ²			
化学検査室	520.90m ²	S造 一部SRC/RC造	(主な設備) 検体検査システム			
細菌検査室	123.15m ²		(主な設備) 微生物検査システム			
病理検査室	221.79m ²		(主な設備) 病理標本染色封入システム			
病理解剖室	81.18 m ²	SRC造	(主な設備) 解剖台、臓器撮影台、滅菌装置			
研究室	193.13m ²	S造 一部SRC/RC造	(主な設備) クリーンベンチオートクレーブ滅菌装置			
講義室	401.90m ²		室数	1室	収容定員	320人
図書室	96.98m ²		室数	2室	蔵書数	5,300冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年4月1日～平成28年3月31日	
紹介率	66.8%	逆紹介率	60.0%
算出根拠	A：紹介患者の数	14,856人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	15,252人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	2,113人	
	D：初診の患者の数	25,403人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・ 無
委員の選定理由の公表の有無	有・ 無
公表の方法	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	6人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	3人
インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	0人
オクトレオチド皮下注射療法 先天性高インスリン血症(生後二週以上十二月未満の患者に係るものであって、ジアゾキサイドの経口投与では、その治療に係る効果が認められないものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	超音波気管支鏡下リンパ節生検(EBUS-TBNA)	取扱患者数	39人
当該医療技術の概要 従来非侵襲的なアプローチが困難であった縦隔リンパ節病変に対し、超音波ガイド下に生検を行うことで高い診断率と安全性を実現した。			
医療技術名	蛍光気管支鏡による胸部疾患の診断	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 がん病巣における自家蛍光の減弱性質を利用し、特定波長下に気管支鏡を行うことで通常光では認識困難な気道の上皮内癌病変を高感度に検出する。			
医療技術名	局所麻酔下胸腔鏡による胸膜疾患の診断	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 びまん性胸膜疾患による胸水貯留症例に対し、手術に比べ大幅に侵襲を低減して確定診断が可能。			
医療技術名	ガイドシース併用気管支内腔超音波断層法(EBUS-GS法)	取扱患者数	35人
当該医療技術の概要 従来気管支鏡検査での診断率が不良であった末梢小型病変に対し、細径超音波プローブにガイドシースをかぶせて病変まで誘導し、病変到達を確認する。			
医療技術名	仮想気管支鏡ソフトウェア(ビーエフナビ) Bf-NAVI	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 CT画像から仮想気管支鏡画像を作成する。3Dが総による対象部位の表示が可能であり、気管支鏡検査室のベッドサイドでアプローチ経路の確認が可能。			
医療技術名	インパルスオキシレーション法(IOS)	取扱患者数	186人
当該医療技術の概要 安静呼吸時に、複数の周波数波を気道内に送り、各周波数ごとの呼吸抵抗などを測定する検査。周波数により中枢気道成分と末梢気道成分を分けて測定が可能。			
医療技術名	誘発喀痰	取扱患者数	98人
当該医療技術の概要 高張食塩水(3%)吸入により喀痰を採取し、その細胞所見やメディエーター濃度等を検討する。炎症性気道疾患の病態解析に有効。			
医療技術名	呼気一酸化窒素濃度	取扱患者数	212人
当該医療技術の概要 呼気中の一酸化窒素濃度を測定することにより、喘息など好酸球性気道炎症の存在が推定可能。病態解明や治療効果判定への応用が期待される。			
医療技術名	気管支サーモプラスティ	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 重症喘息患者を対象とした新治療。気管支鏡下に中葉を除く全気管支に専用のプローブを用いて熱を加えることで気管支平滑筋の容量減少から発作回数減少などの効果が期待される。			
医療技術名	自家末梢血幹細胞移植療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 主に、初発の多発性骨髄腫および再発性悪性リンパ腫を対象とし、大量化学療法併用の自家末梢血幹細胞移植療法。			
医療技術名	同種血縁および非血縁者間造血幹細胞移植療法	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 難治性の白血病、リンパ腫や重症再生不良性貧血患者を対象としたHLA一致もしくは一部不一致ドナーを用いた、血縁および非血縁者間造血幹細胞移植療法。			

医療技術名	Frey手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
内科的治療の困難な慢性膵炎症例に対して、膵管を長軸方向に開放し、膵頭部全面をくり抜き、拳上空腸を側々吻合で縫合して膵管内圧が上がらないようにする。			
医療技術名	膵頭十二指腸切除術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要			
膵頭部癌または遠位部胆管癌、十二指腸乳頭部癌などに対して、食べ物の流れ道、膵液の流れ道、胆汁の流れ道を十二指腸と同時に合併切除し、空腸を用いて再建する。			
医療技術名	肝切除術兼膵頭十二指腸切除術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
肝切除と膵頭十二指腸切除を同時に行う手術術式で、胆管癌で病変が肝内胆管から膵内胆管まで及ぶ症例に対し行う。			
医療技術名	腹腔鏡下食道アカラシア手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
アカラシア手術を腹腔鏡下にて安全に施行している。			
医療技術名	胸腔鏡下食道垂全摘出術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
切除可能食道癌に対して胸腔鏡下に施行している。			
医療技術名	腹腔鏡下肝部分切除術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要			
肝外側区域切除または肝部分切除を腹腔鏡下に行っている。			
医療技術名	胸腔鏡下前縦隔腫瘍切除術	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要			
前縦隔腫瘍は通常胸骨正中切開を用いて手術するが、胸腔鏡を用いることで前縦隔腫瘍を胸骨を切開せずに切除できる。			
医療技術名	胸膜肺全摘術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
悪性胸膜中皮腫に対して、胸膜肺全摘術を行い、横隔膜を人工物で再建する。			
医療技術名	胸腺悪性腫瘍手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
周辺臓器浸潤を伴う悪性胸腺腫瘍に対して、浸潤臓器を含めた拡大切除再建を行う。			
医療技術名	中間位鎖肛一期的修復術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
新生児の、直腸尿道瘻を有する中間位鎖肛に対する一期的修復術。			
医療技術名	粘膜外幽門筋切開術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
乳児期早期の、肥厚性幽門狭窄症に対する手術治療。			
医療技術名	仙尾部奇形腫切除術(経腹および経会陰)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
新生児の、出生前診断された、腹部に達する仙尾部奇形腫の、経腹的および経会陰・経臀部式の切除術。			

医療技術名	脊椎側弯症手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
成長期に脊椎が彎曲して変形する側弯症に対して、曲がり矯正して固定する手術。			
医療技術名	脊椎内視鏡手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
内視鏡を用いて、小さい皮膚切開で骨や靭帯を削り、または、椎間板ヘルニアを切除して神経の圧迫を取り除く手術。			
医療技術名	大腿骨頭回転骨切術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
大腿骨頭壊死症に対して、大腿骨頸部で骨切を行い、大腿骨頭を回転して温存する手術。			
医療技術名	小児股関節脱臼に対する観血的脱臼整復(広範囲展開法)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
股関節周囲の脱臼整復障害因子を手術的に全て取り除き、脱臼を観血的に整復する手術。			
医療技術名	3次元大腿骨形状解析による転子下減念短縮骨切を併用した人工股関節置換術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
高度前捻異常や高位脱臼を伴った股関節に対し、コンピューター3次元形状解析を行い、適切な骨切りの位置、大きさ、減念の量を算出したうえこの手術方法に最適化して設計された人工関節を用いた人工股関節置換術。			
医療技術名	前十字靭帯、後十字靭帯を温存した人工膝関節置換術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要			
従来切除せざるを得なかった前十字靭帯を温存することにより、より正常膝に近い人工膝関節置換術を目指す。			
医療技術名	ヨウ素把持チタン製インプラント挿入	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
感染症を併発する人工膝関節置換術に対し、感染合併の低減を目的としてヨウ素コーティングしたチタン製インプラントを置換するもの。			
医療技術名	悪性骨腫瘍に対する液体窒素処理骨の自家骨移植術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
悪性骨腫瘍に対し骨病変部への局所的治療として、液体窒素処理を腫瘍部に実施し処理後の骨を自家骨移植を行うもの。			
医療技術名	抗リン脂質抗体症候群合併妊娠に対する抗凝固療法	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要			
抗リン脂質抗体症候群は不育症の原因の1つであり、抗凝固療法(ヘパリン・アスピリン)により治療する。			
医療技術名	習慣流産患者の妊娠管理	取扱患者数	150人
当該医療技術の概要			
習慣流産患者の診断と妊娠継続分娩管理をおこなう。			
医療技術名	重症妊娠高血圧症候群患者の管理	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要			
重症妊娠高血圧症候群の患者を、高度な集約的治療により、妊娠・分娩管理をおこなう。			
医療技術名	妊娠中期破水妊娠の管理	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要			
妊娠中期の前期破水は母体のみでなく胎児にも大きな影響を与える。集約的な治療によって妊娠分娩管理をする。			

医療技術名	胎児異常の出生前診断	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 胎児異常の出生前診断は困難で、専門医による診断が必要である。また診断後のカウンセリングにも専門知識が必要である。			
医療技術名	異常胎児妊娠妊婦の管理	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 胎児異常妊娠の集約的な治療によって妊娠分娩管理をする。			
医療技術名	子宮頸がんに対する広汎子宮全摘術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 広汎子宮全摘術は専門性の高い婦人科医のみが実施できる手術である。また術後合併症の頻度も高い。			
医療技術名	子宮癌に対する子宮温存療法	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 早期子宮癌は細心の注意を払った治療をすることにより、子宮を温存することができる。このことにより治療後の妊娠を望む事が出来る。			
医療技術名	精巣内精子回収法(TESE)により得られた精子を用いた顕微授精	取扱患者数	27人
当該医療技術の概要 精巣内から直接得られた精子を用いた顕微授精をおこなうことにより、この男性不妊症の患者が、生児を得ることが出来る。			
医療技術名	筋硬直性ジストロフィーに対する着床前診断	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 筋硬直性ジストロフィーは遺伝疾患であり、着床前診断することが出来る。			
医療技術名	染色体相互転座に起因する習慣流産患者に対する着床前診断	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 習慣流産の原因の1つである染色体相互転座は着床前診断することが出来る。			
医療技術名	脈絡膜新生血管、黄斑浮腫に対する抗VEGF硝子体内注射	取扱患者数	1397人
当該医療技術の概要 加齢黄斑変性、近視性脈絡膜新生血管、および、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症による黄斑浮腫に対して抗VEGF薬を硝子体内に注射して、新生血管を縮小あるいは浮腫の改善を測る。			
医療技術名	加齢黄斑変性に対する光線力学療法	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要 光感受性物質を静脈内投与したのちに、レーザー光線をあて、加齢黄斑変性の脈絡膜新生血管を縮小させる。			
医療技術名	増殖硝子体網膜症に対する増殖硝子体網膜症手術	取扱患者数	27人
当該医療技術の概要 難治性網膜剥離である増殖硝子体網膜症に対し、輪状締結を行い、硝子体および増殖膜を切除、ガスあるいはシリコンオイルで眼内を置換する。			
医療技術名	インプラントを用いた緑内障手術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 他の治療法で眼圧コントロール不良の緑内障患者に対して、インプラントを用いた濾過手術を施行する。			

医療技術名	糖尿病黄斑浮腫に対する域値下光凝固	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要			
糖尿病黄斑浮腫に対して、黄斑部域値下網膜光凝固を施行する。			
医療技術名	ロボット支援腔鏡下前立腺全摘術	取扱患者数	95人
当該医療技術の概要			
2012年4月より保険適応になり最大で週4名の手術を行い、大きなトラブル無く施行している。前立腺周囲の解剖が従来の腹腔鏡より繊細にわかり、より高度な手術を可能にしている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
ロボットの特製を生かした手術が行え、従来の腹腔鏡よりも安全かつ迅速に手術が行える。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要			
ロボットの特製を生かした手術が行え、従来の腹腔鏡よりも安全・確実に手術が行える。			
医療技術名	腹腔鏡下副腎・腎および腎尿管全摘術	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要			
泌尿器科関連学会による技術認定が認められている手術。技術認定医が指導を行い、順次認定を指導している。			
医療技術名	腹腔鏡内精巣に対する腹腔鏡下精巣固定術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要			
小児に対するより低侵襲な手術として腹腔鏡を全国に先駆けて取り入れ行っている。腹腔内からの精巣の観察ができ、開腹による手術の時の理解にもつながっている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下逆流防止術	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要			
先進医療として厚生労働省が認めた高度な手術である腹腔鏡手術をロボットで行った、日本で唯一行える手術である。細かな縫合技術が必要であるが、ロボットの特徴をまさにいかせる手術である。			
医療技術名	尿道下裂形成術	取扱患者数	38人
当該医療技術の概要			
全国一の手術経験を持っている。拡大鏡を用いての繊細かつ高度な技術を要する。繊細な手術になるため、形成術全般に対する知識が深まる。			
医療技術名	顕微鏡下精子採取術	取扱患者数	38人
当該医療技術の概要			
男性不妊症に対する補助生殖医療技術。産婦人科と協調しながら顕微鏡下に精子採取術を行っている。東海地区の大学病院では唯一当院でしか経験できないため、特殊な手術の経験となっている。			
医療技術名	顕微鏡下精索静脈瘤低位結紮術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要			
高位結紮術と低位結紮術が存在する。その中でも顕微鏡下に行う低位結紮術は高度な技術と時間がかかるが、その代わりに再発が少ないメリットがある。			
医療技術名	人口括約筋埋め込み術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
尿失禁に対する根治術。前立腺がん術後の尿失禁に対して主に行われている。名古屋市立大学関連では大学でしか行えない技術である。			

医療技術名	不安障害に対する認知行動療法	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 パニック障害や社交不安障害患者に、まず呼吸コントロール法や注意訓練法、認知再構成法といった不安をコントロールする技法を習得してもらい、その後不安や恐怖の対象への段階的なエクスポージャー法を施行して、回避等の症状低減を図る。			
医療技術名	慢性めまいに対する新世代認知行動療法(アクセプタンス&コミットメント・セラピー)	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 慢性めまい(心因性めまい)の患者に対して、アクセプタンス、観察者としての自己、脱フュージョン、現在との接触、価値、コミットされた行為、というアクセプタンス&コミットメント・セラピーのコアプロセスを体験的に習得してもらい、心理的柔軟性を高めることで、QOLの向上を目指し、結果として慢性めまい症状の低減を図る。			
医療技術名	児童外来	取扱患者数	1440人
当該医療技術の概要 児童・思春期に特有な疾患について個人精神療法を中心を行う。			
医療技術名	電気けいれん療法	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要 これまでに数種類の抗うつ薬を十分量、十分期間服用しても改善の得られない難治性うつ病や、副作用のために薬物治療を行えない治療抵抗性うつ病、高齢者のうつ病などに対しては、修正型電気けいれん療法(週2回ずつ約10回を1クールとして施行)を麻酔科の協力を得て行う。			
医療技術名	High-flow bypass術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 内頸動脈瘤など、内頸動脈を閉鎖して脳動脈瘤への血流を減らす手術の際に、より末梢側の脳血流を確保するために、橈骨動脈などの自家血管グラフトを採取し、頸部血管と、頭蓋内血管の間にバイパス血管として吻合し、血流再建を一期的に行う手術である。			
医療技術名	覚醒下開頭脳腫瘍摘出術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 開頭を行った後、患者を覚醒させ、脳表面の電気刺激を行いながら、患者の指示動作ができない部位を脳機能がある部位として確認しながら、脳腫瘍の摘出範囲を調べて脳機能を温存しながら、脳腫瘍を摘出する手術である。			
医療技術名	耳鼻科との合同手術 聴神経腫瘍摘出術、真珠腫摘出術	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 耳鼻科と合同で脳神経モニタリングを行いながら、顔面神経、聴神経の機能温存しながら腫瘍摘出を行う手術である。			
医療技術名	脳深部刺激装置埋め込み術	取扱患者数	22人
当該医療技術の概要 脳深部刺激装置をMRI定位手術装置を用いて微小電極で脳深部の電気信号を確認しながら、正確な位置に埋め込む手術である。			
医療技術名	硬膜動静脈瘻血管内塞栓術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 硬膜動静脈瘻を血管撮影検査でAV-shuntの部位を正しく診断し、血管内塞栓術により、AV-shunt部位を遮断する手術である。			
医療技術名	神経内視鏡手術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 神経内視鏡を用いて、頭蓋底の腫瘍、脳内血腫を摘出する手術である。			

医療技術名	悪性腫瘍に対する集学的治療	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要			
周術期の口腔ケアから顎骨再建までを含め悪性腫瘍に対する治療。			
医療技術名	骨再生技術を応用したインプラント治療	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要			
フィブリン塊であるPlatelet rich fibrin を用いた骨造成及びインプラント埋入。			
医療技術名	顎変形症手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
顎変形症や睡眠時無呼吸症候群に対して3Dモデルを応用した手術。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	7	56	ベーチェット病	89
2	筋萎縮性側索硬化症	21	57	特発性拡張型心筋症	46
3	脊髄性筋萎縮症	21	58	肥大型心筋症	30
4	原発性側索硬化症	21	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	12	60	再生不良性貧血	43
6	パーキンソン病	384	61	自己免疫性溶血性貧血	7
7	大脳皮質基底核変性症	5	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	
8	ハンチントン病		63	特発性血小板減少性紫斑病	76
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	
10	シャルコー・マリー・トウス病	12	65	原発性免疫不全症候群	2
11	重症筋無力症	183	66	IgA腎症	81
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	19
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	65	68	黄色靭帯骨化症	
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	11	69	後縦靭帯骨化症	
15	封入体筋炎	49	70	広範脊柱管狭窄症	
16	クロー・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	
17	多系統萎縮症	13	72	下垂体性ADH分泌異常症	
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	23	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	21	74	下垂体性PRL分泌亢進症	
20	副腎白質ジストロフィー	7	75	クッシング病	3
21	ミトコンドリア病	6	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	
22	もやもや病	37	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	
23	プリオン病	2	78	下垂体前葉機能低下症	363
24	亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	450
25	進行性多巣性白質脳症	1	80	甲状腺ホルモン不応症	1
26	HTLV-1関連脊髄症	6	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	
27	特発性基底核石灰化症	5	82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	23	83	アジソン病	
29	ウルリッヒ病	38	84	サルコイドーシス	297
30	遠位型ミオパチー	38	85	特発性間質性肺炎	41
31	ベスレムミオパチー	38	86	肺動脈性肺高血圧症	116
32	自己食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	116
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	21	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	7
34	神経線維腫症	41	89	リンパ管筋腫症	5
35	天疱瘡	56	90	網膜色素変性症	38
36	表皮水疱症	6	91	バッド・キアリ症候群	
37	膿疱性乾癬(汎発型)	23	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	6	93	原発性胆汁性肝硬変	78
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	55
40	高安動脈炎	18	95	自己免疫性肝炎	87
41	巨細胞性動脈炎	10	96	クローン病	70
42	結節性多発動脈炎	25	97	潰瘍性大腸炎	256
43	顕微鏡的多発血管炎	25	98	好酸球性消化管疾患	
44	多発血管炎性肉芽腫症	83	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	18	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ		101	腸管神経節細胞減少症	
47	バージャー病	7	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	2
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	158	103	CFC症候群	1
49	全身性エリテマトーデス	384	104	コステロ症候群	21
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	109	105	チャージ症候群	1
51	全身性强皮症	27	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	54	107	全身型若年性特発性関節炎	4
53	シェーグレン症候群	232	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病		109	非典型溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎		110	ブラウ症候群	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	19	161	家族性良性慢性天疱瘡	23
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	6
113	筋ジストロフィー	38	163	特発性後天性全身性無汗症	
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	21	164	眼皮膚白皮症	1
115	遺伝性周期性四肢麻痺	1	165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎	4	166	弾性線維性仮性黄色腫	23
117	脊髄空洞症	11	167	マルファン症候群	12
118	脊髄髄膜瘤	31	168	エーラス・ダンロス症候群	3
119	アイザックス症候群	21	169	メンケス病	9
120	遺伝性ジストニア	3	170	オクシピタル・ホーン症候群	9
121	神経フェリチン症	5	171	ウィルソン病	9
122	脳表ヘモジデリン沈着症	7	172	低ホスファターゼ症	13
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症		173	VATER症候群	2
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症		174	那須・ハコラ病	1
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症		175	ウィーバー症候群	5
126	ペリー症候群	8	176	コフィン・ローリー症候群	11
127	前頭側頭葉変性症	7	177	有馬症候群	6
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	4	178	モワット・ウィルソン症候群	1
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	9	179	ウィリアムズ症候群	5
130	先天性無痛無汗症	1	180	ATR-X症候群	1
131	アレキサンダー病	9	181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	1
133	メビウス症候群	1	183	ファイファー症候群	1
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184	アントレー・ピクスラー症候群	1
135	アイカルディ症候群	1	185	コフィン・シリズ症候群	1
136	片側巨脳症	2	186	ロスムンド・トムソン症候群	23
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	1
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	2
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	2
140	ドラベ症候群		190	鰓耳腎症候群	11
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	28	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠神てんかん		192	コケイン症候群	21
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	プラダー・ウィリ症候群	21
144	レノックス・ガストー症候群	33	194	ソトス症候群	5
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	21
146	大田原症候群		196	ヤング・シンブソン症候群	2
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	11
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	1	199	5p欠失症候群	3
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	14
151	ラスムッセン脳炎		201	アンジェルマン症候群	11
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マギニス症候群	4
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群	4
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群	1	206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群	10	207	総動脈幹遺残症	6
158	結節性硬化症	11	208	修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症	4	209	完全大血管転位症	43
160	先天性魚鱗癬	4	210	単心室症	32

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数	疾患名	患者数	
211	左心低形成症候群	7	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症	7	260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	46	261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	88	262	原発性高カイロミクロン血症	
215	ファロー四徴症	88	263	脳腫黄色腫症	2
216	両大血管右室起始症	61	264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病	8	265	脂肪萎縮症	1
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	
219	ギャロウェイ・モフト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	70	268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎	7	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	86	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		271	強直性脊椎炎	
224	紫斑病性腎炎	23	272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症	3	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	14
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	3	274	骨形成不全症	14
227	オスラー病		275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎	10	276	軟骨無形成症	8
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		277	リンパ管腫症/ゴーム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	26	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	5
233	ウォルフラム症候群	1	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	7	282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症	12	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	2	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	4
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	44	285	ファンコニ貧血	4
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	13	286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	11	287	エプスタイン症候群	656
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	4
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	5
244	メープルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	1
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	3
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	3
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	7
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	7	298	遺伝性膝炎	121
251	尿素サイクル異常症	43	299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	244
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	38
254	ポルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	42
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	2	303	アッシャー症候群	1
256	筋型糖原病	7	304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病	7	305	遅発性内リンパ水腫	229
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	5

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料(一般7:1,精神10:1)	・小児入院管理料2
・超急性期脳卒中加算	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・診療録管理体制加算2	・歯科外来診療環境体制加算
・急性期看護補助体制加算3	・
・看護職員夜間配置加算	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1・2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊婦管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・
・データ提出加算2	・
・退院支援加算2・3	・
・精神疾患診療体制加算	・
・救命救急入院料1	・
・特定集中治療室管理料3	・
・総合周産期特定集中治療室管理料1・2	・
・新生児治療回復室入院医療管理料	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・内服・点滴誘発試験
・がん性疼痛緩和指導管理料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・がん患者指導管理料 1・2・3	・画像診断管理加算1
・外来緩和ケア管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・院内トリアージ実施料	・冠動脈CT撮影加算
・外来放射線放射線照射診療料	・心臓MRI撮影加算
・ニコチン依存症管理料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・がん治療連携計画策定料	・外来化学療法加算1
・肝炎インターフェロン治療計画料	・無菌製剤処理料
・薬剤管理指導料	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・医療機器安全管理料1・2	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・歯科治療総合医療管理料(Ⅰ・Ⅱ)	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・遺伝学的検査	・がん患者リハビリテーション料
・HPV核酸及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・歯科口腔リハビリテーション料2
・検体検査管理加算 Ⅰ・Ⅳ	・認知療法・認知行動療法2
・遺伝カウンセリング加算	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・医療保護入院等診療料
・胎児心エコー法	・エタノールの局所注入(甲状腺・副甲状腺)
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・透析液水質加算1
・ヘッドアップティルト試験	・CAD/CAM冠
・長期継続頭蓋内脳波検査	・歯科技工加算1・2
・神経学的検査	・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
・補聴器適合検査	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・ロービジョン検査判断料	・骨移植術(軟骨移植術を含む)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る)))
・コンタクトレンズ検査料1	・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)

施設基準の種類	施設基準の種類
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術	・同種死体腎移植術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・膀胱水圧拡張術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・網膜再建術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・輸血管管理料 I
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・輸血適正使用加算
・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術	・胃瘻増設時嚥下機能評価加算
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る)	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・経皮的な中隔心筋焼灼術	・麻酔管理料(I・II)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・放射線治療専任加算
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・外来放射線治療加算
・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術	・高エネルギー放射線治療
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・1回線量増加加算
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る)	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・体外衝撃波胆石破砕術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下肝切除術	・定位放射線治療
・体外衝撃波膀胱石破砕術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	・テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・テレパソロジーによる術中迅速細胞診
・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	・病理診断管理加算2
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・クラウン・ブリッジ維持管理料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・センチネルリンパ節生検	・
・悪性黒色腫センチネルリンパ節生検	・
・乳がんセンチネルリンパ節生検	・
・インプラント義歯	・
・早期悪性腫瘍大調粘膜下層剥離術	・
・内視鏡手術用支援機器加算	・
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に1回程度
剖 検 の 状 況	剖検症例数 19例 / 剖検率 3.4 %

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				委	補
ウイルス感染を指標にした加齢に伴う免疫機能低下の予防・克服を目指す研究	赤津裕康	総合内科・総合診療科 地域医療教育学	¥382,500	委	(独)国立長寿医療研究センター
ペクチン含有濃厚消化態流動食(ハイネীগエル)の長期投与が栄養状態および消化管に及ぼす影響に関する検討	赤津裕康	総合内科・総合診療科 地域医療教育学	¥1,020,000	委	(株)大塚製薬工場
花粘膜に存在する認知症バイオマーカーの同定と花粘膜を用いた低侵襲的診断法の開発	赤津裕康	総合内科・総合診療科 地域医療教育学	¥231,095	補	科研費基金(日本学術振興会)
再生医療研究による富山湾海洋深層水等張液を利用した研究用細胞培養液開発および高機能性化粧品開発	赤津裕康	総合内科・総合診療科 地域医療教育学	¥800,000	委	H27年度戦略的基盤技術高度化支援事業(経済産業省)
他学年参加型教育プログラムとIT遠隔指導による新たな地域医療教育手法の開発	兼松孝好	総合内科・総合診療科 地域医療教育学	¥4,160,000	補	科研費基金(日本学術振興会)
高齢者における心不全マーカー(NT-proBNP, BNP)の有用性の検討。山間部と海沿いでの比較検討	正木克由規	総合内科・総合診療科 地域包括医療学寄附講座	¥1,500,000	委	日本農村医学会 H27年度JA共済連委託研究
食道上皮に存在する酸感受性機械受容体イオンチャンネルの機能解析	神谷 武	消化器内科	¥1,100,000	補	文部省科研費
癌間質の腫瘍会合性マクロファージを標的とした糖鎖結合光機能分子による光治療法の開発	片岡 洋望	消化器内科	¥1,100,000	補	文部省科研費
臨床応用のための新規光感受性糖鎖連結クロリンを用いた癌細胞超選択的次世代光線力学療法の開発	片岡 洋望	消化器内科	¥43,600,000	補	日本医療研究開発機構
Annexin A2を分子標的にした新規抗TNF療法の開発	谷田 諭史	消化器内科	¥200,000	補	文部省科研費
消化器癌におけるATM発現とPARP阻害剤感受性の検討	久保田 英嗣	消化器内科	¥1,200,000	補	文部省科研費

消化管腫瘍に対する腫瘍溶解性レオウイルスによる新規内視鏡的治療法の開発	森 義徳	消化器内科	¥1,950,000	補	文部省科研費
胃型化・腸型化の分子メカニズム解明と幹細胞をターゲットとした分化誘導療法の開発	溝下 勤	消化器内科	¥1,300,000	補	文部省科研費
胃癌・大網相互コミュニケーションからみた胃癌腹膜播種メカニズムの解明	志村 貴也	消化器内科	¥700,000	補	文部省科研費
BTB蛋白を介したCullin3 E3リガーゼの新たな消化器疾患メカニズムの解明	尾関 啓司	消化器内科	¥1,500,000	補	文部省科研費
胃癌の形質発現に関するエピジェネティクスネットワークの解明	林 香月	肝・膵内科	¥1,200,000	補	文部省科研費
肝組織に存在する4種類のB型肝炎ウイルスRNA定量測定系の開発	藤原 圭	肝・膵内科	¥1,200,000	補	文部省科研費
胆管癌に対するFISH法を用いた新規内視鏡診断方法とバイオマーカーの確立	内藤 格	肝・膵内科	¥1,200,000	補	文部省科研費
膵管腺癌の分子診断法開発: EUS-FNAによる生検組織標本を用いた癌関連遺伝子TP53経路の遺伝子変異・染色体異常・エピジェネティック修飾の検出	堀 寧	肝・膵内科	¥500,000	委	公益財団法人日本膵臓病研究財団
肺癌化学療法の効果・副作用予測因子としての有機カチオントランスポーターの橋渡し研究	小栗 鉄也	呼吸器・アレルギー内科	¥1,500,000	補	文部科学省
小細胞肺癌におけるネスチンの臨床的意義および治療標的としての研究	前野健	呼吸器・アレルギー内科	¥1,170,000	補	文部科学省
胃食道逆流症における咳嗽機序: 食道粘膜のTRPV1発現と神経原性炎症の関与	竹村 昌也	呼吸器・アレルギー内科	¥1,200,000	補	文部科学省
小細胞肺癌における個別化医療を目指して: アムルピシン治療バイオマーカーの解明	高桑 修	呼吸器・アレルギー内科	¥1,399,061	補	文部科学省

革新的医薬品・医療機器・再生医療等製品実用化促進事業	飯田 真介	血液・腫瘍内科学	¥6,400,000	補	厚生労働省
がん免疫療法における抗CCR4抗体によるTreg除去療法—抗体単独療法から複合免疫療法への医師主導治験—	飯田真介	血液・腫瘍内科学	¥1,000,000	委	日本医療研究開発機構
アミロイドーシスに関する調査研究	飯田真介	血液・腫瘍内科学	¥200,000	補	厚生労働省
高齢者多発性骨髄腫患者に対する至適な分子標的療法の確立と治療効果および有害事象を予測するバイオマーカーの探索的研究	飯田真介	血液・腫瘍内科学	¥2,500,000	委	日本医療研究開発機構
多発性骨髄腫に対する至適分子標的療法の確立とバイオマーカーの探索研究(26-A-4)	飯田真介	血液・腫瘍内科学	¥1,500,000	委	がん研究開発費
効果的な複合免疫療法の確立」(免疫増強・制御総合モニタリングに基づく免疫制御解除型がんワクチンの基盤開発における抗体療法の検討)	飯田真介	血液・腫瘍内科学	¥3,090,910	委	日本医療研究開発機構
がん診療を受ける患者の全人的満足度、及びその規定因子の同定に関する研究	小松弘和	血液・腫瘍内科学	¥1,100,000	補	文部科学省
がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動	石田高司	血液・腫瘍内科学	¥6,550,000	補	文部科学省
モガムリズマブを用いた成人T細胞白血病リンパ腫に対する革新的治療法の確立	石田高司	血液・腫瘍内科学	¥2,200,000	補	文部科学省
リンパ系腫瘍・多発性骨髄腫に対する標準的治療確立のための多施設共同研究(26-A-4)	石田高司	血液・腫瘍内科学	¥400,000	委	がん研究開発費
成人T細胞白血病の治療を目指した病因ウイルス特異抗原を標的とする新規複合的ワクチン療法:抗CCR4抗体を併用した樹状細胞療法 第I/II相試験	石田高司	血液・腫瘍内科学	¥4,000,000	委	日本医療研究開発機構
成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)に対する新規治療を開発する医師主導治験	石田高司	血液・腫瘍内科学	¥800,000	委	日本医療研究開発機構
成人T細胞性白血病/リンパ腫(ATLL)に対しNY-ESO-1+AS15ASCIのモガムリズマブ併用での安全性と有効性探索のための医師主導治験(第I/II相)	石田高司	血液・腫瘍内科学	¥3,000,000	委	日本医療研究開発機構

がん免疫療法における抗CCR4抗体によるTreg除去療法—抗体単独療法から複合免疫療法への医師主導治験—	石田高司	血液・腫瘍内科学	¥1,000,000	委	日本医療研究開発機構
ゲノム網羅的解析によるB型肝炎ウイルス感染の病態関連遺伝子の同定と新規診断法の開発	楠本茂	血液・腫瘍内科学	¥2,000,000	委	日本医療研究開発機構
B型肝炎ウイルス再活性化に関与するウイルス・宿主主要因の解明に基づく予防対策法の確立を目指す研究	楠本茂	血液・腫瘍内科学	¥4,521,740	委	日本医療研究開発機構
成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)に対する新規治療を開発する医師主導治験	楠本茂	血液・腫瘍内科学	¥800,000	委	日本医療研究開発機構
高齢者多発性骨髄腫患者に対する至適な分子標的療法の確立と治療効果および有害事象を予測するバイオマーカーの探索的研究	李 政樹	血液・腫瘍内科学	¥5,384,616	委	日本医療研究開発機構
プロテアソーム阻害剤獲得耐性機序の解明と耐性を克服する新規分子標的の探索研究	李 政樹	血液・腫瘍内科学	¥1,300,000	補	文部科学省
モガムリズマブによる皮膚障害の病態解明	伊藤 旭	血液・腫瘍内科学	¥1,100,000	補	文部科学省
エフェクター制御性T細胞の統合的制御に基づく新たながん免疫治療法の確立	伊藤 旭	血液・腫瘍内科学	¥300,000	補	文部科学省
成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)に対する新規治療を開発する医師主導治験	伊藤 旭	血液・腫瘍内科学	¥400,000	委	日本医療研究開発機構
本邦におけるHFpEFの実態に関する多施設共同調査研究	大手 信之	心臓・腎高血圧内科学	¥250,000	委	国立循環器センター
J-RHYTHM Registry2	大手 信之	心臓・腎高血圧内科学	¥330,000	委	公益財団法人 日本心臓財団
冠動脈内皮障害の包括的早期診断を目指したmicroRNA解析による探索的研究	杉浦 知範	心臓・腎高血圧内科学	¥100,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
PETを用いた変事性不全における心臓交感神経β受容体密度に関する研究	後藤 利彦	心臓・腎高血圧内科学	¥1,000,000	補	独立行政法人 日本学術振興会

東日本大震災が心拍変動に与える影響:ホルター心電図大規模データベースを用いた検討	福田 英克	心臓・腎高血圧内科学	¥280,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
臨床応用を目的としたゲムシタピン耐性膵癌における癌幹細胞マーカーCXCR4の検討	竹山廣光	消化器・一般外科	¥1,100,000	補	文部科学省
臨床応用を目的とした膵癌血管新生におけるPKDシグナルの分子生物学的役割の検討	松尾洋一	消化器・一般外科	¥3,400,000	補	文部科学省
食道癌におけるmicroRNAの機能解析	石黒秀行	消化器・一般外科	¥1,300,000	補	文部科学省
コネキシン遺伝子をターゲットとした食道癌治療の可能性	田中達也	消化器・一般外科	¥1,700,000	補	文部科学省
臨床応用を目的としたゲムシタピン耐性膵癌に対する抗CXCR2抗体療法の検討	宮井博隆	消化器・一般外科	¥1,300,000	補	文部科学省
食道癌におけるポストゲノムシーケンスの変異遺伝子機能解析	木村昌弘	消化器・一般外科	¥1,300,000	補	文部科学省
胸腺癌における発癌原因候補遺伝子の機能解析及び個別化治療法の確立	奥田 勝裕	呼吸器外科	¥1,500,000	補	日本学術振興会
FISH/CISHを用いたRET遺伝子関連異常検索	藤井 義敬	呼吸器外科	¥2,200,000	補	日本学術振興会
肺癌におけるNTRK遺伝子発現と薬剤感受性の検討	立松 勉	呼吸器外科	¥1,400,000	補	日本学術振興会
心奇形患児の脳機能障害を回避する選択的脳灌流法の開発と成人への応用	三島 晃	心臓血管外科	¥2,300,000	補	日本学術振興会
神経芽腫におけるアダプター蛋白質Shfの機能解析と治療への応用	高木 大輔	小児外科	¥1,000,000	補	日本学術振興会
唾液を用いた乳癌の新規検診モダリティおよび新規バイオマーカーの開発	遠山竜也	乳腺外科	¥3,700,000	補	日本学術振興会
乳癌におけるタキサン耐性機序のゲノムワイド解析と耐性克服への応用	遠藤友美	乳腺外科	¥1,000,000	補	日本学術振興会

ホルモン療法低感受性乳癌に対するマイクロRNA-1290ノックダウン療法	波戸ゆかり	乳腺外科	¥3,700,000	補	日本学術振興会
遺伝子多型・血清バイオマーカーによるエストロゲン依存性乳癌罹患リスクモデルの構築	吉本信保	乳腺外科	¥3,800,000	補	日本学術振興会
乳癌に対する新規ホルモン療法薬の開発を目的としたチロシンキナーゼノックダウン療法	浅野倫子	乳腺外科	¥3,900,000	補	日本学術振興会
骨代謝における低分子量ストレス蛋白質の分子標的の解析	大塚 隆信	整形外科	¥1,430,000	補	文部科学省
難治性脊柱変形の病態解明と脊柱変形手術低侵襲化への集学的挑戦	水谷 潤	整形外科(リハビリテーション医学)	¥2,210,000	補	文部科学省
グリオスタチンは関節リウマチの新規治療ターゲットとなりうる	永谷 祐子	整形外科(関節リウマチ寄附講座)	¥1,560,000	補	文部科学省
ASIC1aノックアウトマウスを用いた育児障害の研究	若林 健二郎	整形外科	¥1,040,000	補	文部科学省
抗癌剤耐性や肺転移形成と細胞周期との関連-Fucci導入肉腫細胞を用いた解析	木村 浩明	整形外科	¥910,000	補	文部科学省
脊椎低侵襲手術における脊椎分節動静脈走行の解剖学的重要性と個体差の検討	松本 佳久	整形外科	¥1,000,000	委	公益財団法人整形外科学科災害外科学研究助成財団
不育症における遺伝学的原因の探索	杉浦 真弓	産科婦人科学	¥1,600,000	補	文部科学省
抗リン脂質抗体症候群合併妊娠の治療及び予後に関する研究	杉浦 真弓	産科婦人科学	¥869,566	補	厚生労働省
不育症・ヒト生殖メカニズム解明のための共同研究拠点	杉浦 真弓	産科婦人科学	¥4,995,202	補	文部科学省
胚盤胞腔液内のDNAを用いた無侵襲性着床前診断技術の確立と臨床への応用	佐藤 剛	産科婦人科学	¥1,200,000	補	文部科学省
侵襲性新生児GBS感染症予防のための母児感染予防ケアの開発と評価	鈴森 伸宏	産科婦人科学	¥800,000	補	文部科学省

子宮内膜の脱落膜化不全病態に関わるプロテアーゼの同定及び非侵襲的臨床診断法の開発	後藤 志信	産科婦人科学	¥1,400,000	補	文部科学省
卵子の加齢変化に対する顆粒膜細胞の作用解明と機能評価方法の開発および治療への応用	服部 幸雄	産科婦人科学	¥1,400,000	補	文部科学省
Gillespie症候群の原因遺伝子同定と病態解明	齋藤伸治	小児科	¥850,000	補	文部科学省
国際標準に立脚した奇形症候群領域の診療指針に関する学際的・網羅的検討	齋藤伸治	小児科	¥1,000,000	補	厚生労働省
Angelman症候群および関連疾患に関する研究	齋藤伸治	小児科	¥300,000	補	厚生労働省
臨床データを元にした発作性運動誘発性舞蹈アトニー（PKD）の発症機序の解明及び新規治療薬の開発	齋藤伸治	小児科	¥500,000	委	日本医療研究開発機構
ミトコンドリア病に合併する高乳酸血症に対するピルビン酸ナトリウム治療法の開発研究－試薬からの希少疾病治療薬開発の試み－	齋藤伸治	小児科	¥1,000,000	委	日本医療研究開発機構
小児期発症の神経筋疾患における心拍変動解析の臨床応用	服部文子	小児科	¥721,301	補	文部科学省
筋ジストロフィーのエビデンス創出を目的とした臨床研究と体制整備	服部文子	小児科	¥400,000	補	精神・神経疾患研究開発費
小児のoccult HBV感染の病態解明と感染予防への応用	伊藤孝一	小児科	¥1,874,954	補	文部科学省
網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	小椋 祐一郎	眼科	¥100,000	補	国立保健医療科学院
新規糖尿病網膜症モデルマウスの開発と創薬コンセプトの確立	小椋 祐一郎	眼科	¥6,240,000	補	独立行政法人日本学術振興会
RhoJにおける内皮細胞運動と血管網パターン形成の制御機構	植村 明嘉	眼科	¥4,940,000	補	独立行政法人日本学術振興会
硝子体血管の異所性網膜内進入によるPIHV発症機構の解明	吉田 宗徳	眼科	¥1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会

抗体および生理活性物質の眼内ドラッグデリバリーシステムの開発	安川 力	眼科	¥1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
再生・移植医療のための新たな網膜色素上皮細胞シート作製方法の開発	安川 力	眼科	¥5,000,000	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
加齢黄斑変性におけるブルッフ膜修復過程の解明～Gタンパクの役割～	加藤 亜紀	眼科	¥1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
加齢黄斑変性における炎症とアポトーシスの関与解明と新規治療法開発	平野 佳男	眼科	¥1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
Fasリガンドを介したアポトーシス制御による加齢黄斑変性の新規治療法開発	平野 佳男	眼科	¥2,000,000	補	公益財団法人 武田科学振興財団
加齢黄斑変性における炎症とアポトーシスの関与解明	平野 佳男	眼科	¥3,000,000	補	公益財団法人 持田記念医学薬学振興財団
加齢黄斑変性における自然免疫の関与解明	平野 佳男	眼科	¥1,000,000	補	公益財団法人 鈴木健三記念医科学応用研究財団
網膜色素上皮でのリポ蛋白・アミロイドβの機能の解明と加齢黄斑変性の治療への応用	佐藤 里奈	眼科	¥1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
培養網膜色素上皮シートへのROCK inhibitor 応用シート安定化と移植へ	臼井 英晶	眼科	¥1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
環境因子と皮膚老化・皮膚疾患-AhRを中心とした分子メカニズム解析	森田 明理	皮膚科	¥4,940,000	補	文部科学省
乾癬の病態における制御性T細胞とIL-17産生細胞の役割	西田 絵美	皮膚科	¥3,770,000	補	文部科学省
胎児メラノサイトの部位特異性に関する研究	中村 元樹	皮膚科	¥4,160,000	補	文部科学省
尿路結石のミトコンドリア傷害機序の病態解明と網羅的遺伝子探索による予防法の開発	安井 孝周	泌尿器科	¥2,120,000	補	文部科学省
尿路結石治療における破碎技術と治療成績の向上を目指した日中共同研究	戸澤 啓一	泌尿器科	¥443,000	補	公立大学法人名古屋市立大学

IVR技術で磁性微粒子を癌転移巣に注入する新規温熱治療の臨床応用に向けた基礎研究	河合 憲康	泌尿器科	¥2,730,000	補	文部科学省
精巣内シグナル伝達機構の解明と男性不妊症の治療への応用	梅本 幸裕	泌尿器科	¥2,425,000	補	文部科学省
過活動膀胱におけるSGF-Kitシグナル伝達系からみた病態解明と新しいバイオマーカーの開発	窪田 泰江	泌尿器科	¥1,000,000	委	公益財団法人三井生命厚生財団
尿路結石形成機序の解明と新規診断・治療薬への臨床応用	岡田 淳志	泌尿器科	¥2,000,000	委	公益財団法人武田科学振興財団
メタボリックシンドロームにおける尿路結石促進機序の解明と分子標的治療への応用	岡田 淳志	泌尿器科	¥6,000,000	補	文部科学省
精子幹細胞の発生・分化・維持メカニズムに関する包括的研究	水野 健太郎	泌尿器科	¥1,000,000	委	一般社団法人日本泌尿器科学会
生活習慣病の一症状としての尿路結石におけるメタボリック関連因子が形成機序に関わる病態の解明	濱本 周造	泌尿器科	¥500,000	委	一般財団法人愛知健康増進財団
腎結石形成における切断型オステオポンチンの機能解析とその抗体を用いた治療法の開発	濱本 周造	泌尿器科	¥1,890,000	補	文部科学省
エピゲノム変化を介した去勢抵抗性前立腺癌におけるオートファジー制御メカニズムの解明と新規治療法の開発	内木 拓	泌尿器科	¥1,000,000	委	公益財団法人前立腺研究財団
細胞外マトリックスを介した前立腺肥大症発症機序の解明と治療への応用	濱川 隆	泌尿器科	¥2,140,000	補	文部科学省
1細胞RNAシーケンスを用いたヒト精子幹細胞ニッチの遺伝子発現解析	守時 良演	泌尿器科	¥500,000	委	一般社団法人日本泌尿器科学会
ヒストン脱メチル化酵素Kdm5aの造精機能における作用機序の解明	西尾 英紀	泌尿器科	¥2,750,000	補	文部科学省

亜系統マウスを用い同定した尿路結石抑制遺伝子Nntによる結石形成メカニズムの解明	宇佐美 雅之	泌尿器科	¥300,000	委	公益財団法人愛知腎臓財団
新規ヒストン脱メチル化酵素阻害剤とオートファジー制御による去勢抵抗性前立腺癌に対する新規治療法の開発	恵谷 俊紀	泌尿器科	¥250,000	委	公益財団法人愛知県がん研究振興会
ヒト腎乳頭石灰化組織のオミックス解析と遺伝子改変ショウジョウバエを用いた遺伝子発現および機能解析による尿路結石分子標的治療の開発	田口 和己	泌尿器科	¥4,500,000	委	公益財団法人内藤記念科学振興財団
遺伝因子・環境因子両面からの尿路結石症予防法の確立に向けた総括的研究	伊藤 恭典	泌尿器科	¥2,020,000	補	文部科学省
卵活性化因子PCLの機能解析と精巣内遺伝子導入による男子不妊症治療法の開発	窪田 裕樹	泌尿器科	¥2,920,000	補	文部科学省
MCL温熱治療による高リスク表在性および浸潤性膀胱がんに対する新たな治療法の開発	高田 英輝	泌尿器科	¥2,470,000	補	文部科学省
セルソーティングシステムを用いた選択的な腎前駆細胞の分化と腎再生メカニズムの解明	中根 明宏	泌尿器科	¥1,830,000	補	文部科学省
亜系統マウスを用いた尿路結石抑制遺伝子Nntの同定と抑制メカニズムの解明	宇佐美 雅之	泌尿器科	¥2,760,000	補	文部科学省
男性不妊症における精子幹細胞の機能回復を目指したセルトリ細胞の機能解析	神沢 英幸	泌尿器科	¥2,719,000	補	文部科学省
汎用性のある系統的な苦痛のスクリーニング手法の確立とスクリーニング効果に基づいたトライアージ体制の構築と普及に関する研究	明智 龍男	精神科	¥500,000	補	厚生労働省
致死的疾患の再発・転移の不安、恐怖の評価法の確立および新規心理学的介入方法の開発	明智 龍男	精神科	¥1,400,000	補	文部科学省
人生において一度だけの重大かつ困難な意思決定に際して医師に求められる望まし態度	明智 龍男	精神科	¥900,000	補	文部科学省

高齢がん患者の在宅療養を阻む要因の早期発見：認知機能障害の観点から	明智 龍男	精神科	¥800,000	補	公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団
小児がん患者・家族に対する新たなサポートシステムおよびケア方法の開発研究	明智 龍男	精神科	¥500,000	補	公益財団法人日本対がん協会
血液がん患者のQOL工場を目的とする、新規多職種協働ケアプログラムの開発	奥山 徹	精神科	¥1,100,000	補	文部科学省
難治性うつ病患者家族への複合家族心理教育の効果～RCTを用いた研究～	竹内 浩	精神科	¥50,000	補	文部科学省
CBTコンピューターゲームSPARXの思春期うつ予防効果とその脳機能メカニズム	山田 敦朗	精神科	¥100,000	補	文部科学省
パニック障害併存症に対する認知行動療法の効果予測因子	小川 成	精神科	¥1,100,000	補	文部科学省
進行・再発がん患者の意思決定を支えるウェブツールの開発	内田 恵	精神科	¥1,500,000	補	文部科学省
強迫性障害におけるメタ認知の神経基盤と認知行動療法への応用の検討	橋本 伸彦	精神科	¥1,000,000	補	文部科学省
慢性めまいに対する認知行動療法プログラムの開発と長期的治療効果の検証	近藤 真前	精神科	¥550,000	補	文部科学省
早期精神病の家族負担軽減のための新規介入の開発とRCTによる効果研究	白石 直	精神科	¥1,100,000	補	文部科学省
難治性パニック障害に対する新規心理療法の開発研究と効果検証	井野 敬子	精神科	¥1,300,000	補	文部科学省
ベンゾジアゼピン中止のためのIT技術を用いた新規行動療法プログラムの開発	伊井 俊貴	精神科	¥1,000,000	補	文部科学省
陽子線治療における生物学的現象の徹底解明～X線生物学との比較～	芝本雄太	放射線科	¥780,000	補	文部科学省
最新陽子線治療技術下の超寡分割照射と長時間間歇照射と適応応答の影響と臨床応用	杉江愛生	放射線科	¥4,550,000	補	文部科学省

縦隔腫瘍におけるmonoenergetic CTを用いた画像診断法の確立	小澤良之	放射線科	¥2,080,000	補	文部科学省
肺動静脈奇形に対する根治治療:ハイドロコイルによる再開通しない塞栓術の確立	下平政史	放射線科	¥3,250,000	補	文部科学省
先天性心疾患におけるデュアルソースCTと逐次近似法を用いた画像診断法の確立	中川 基生	放射線科	¥1,690,000	補	文部科学省
マウスモデルにおける低用量放射線および樹状細胞を用いた放射線免疫療法の確立	河合辰哉	放射線科	¥1,170,000	補	文部科学省
新しいMRI 手法を用いた腫瘍内低酸素イメージングの開発	村井太郎	放射線科	¥2,600,000	補	文部科学省
抗酸化作用に注目した人工呼吸器関連肺障害予防法の開発	平手博之	麻酔科	¥780,000	補	文部科学省
周術期脳傷害に対する再生医療の応用を目指した基礎的研究	太田晴子	麻酔科	¥1,300,000	補	文部科学省
水のターンオーバーからみた髄液産生吸収機構の解明と非侵襲的水頭症診断への応用	間瀬光人	脳神経外科	¥3,000,000	補	文部科学省
MicroRNAプロファイリングによる頸動脈石灰化粥腫の安定化機構の解明	片野広之	脳神経外科	¥1,100,000	補	文部科学省
脳脊髄液減少症の診断・治療の確立に関する研究	西尾 実	脳神経外科	¥100,000	補	厚生労働省
パーキンソン病の認知機能障害に対するメマンチンの治療効果の多角的検討	川嶋 将司	神経内科	¥500,000	補	特別研究奨励費
運動がもたらす認知機能改善効果の機序解明-コリン作動性神経の視点から-	加藤 大輔	神経内科	¥650,000	補	特別研究奨励費
タウ蛋白のリン酸化機序の解明-HCNP前駆蛋白の視点より-	水野 将行	神経内科	¥200,000	補	特別研究奨励費
食品成分からの口腔がん予防活性化合物の探索法確率と単離同定	渋谷 恭之	歯科口腔外科	¥3,000,000	補	文部科学省

骨髄間質細胞培養系新規担体と培養骨膜を組み合わせた骨再生法の開発	和田 圭之進	歯科口腔外科	¥3,700,000	補	文部科学省
難治性脊柱変形の病態解明と脊柱変形手術低侵襲化への集学的挑戦	水谷潤	リハビリテーション科	¥2,210,000	補	文部科学省
TDP-43分子病変の時空間解析技術の創出と、そのFTLD早期診断への応用	植木 美乃	リハビリテーション科	¥1,000,000	補	文部科学研究費
直流刺激と歩行運動のハイブリッド型リハによる下肢機能再建とその脳内機構の解明	植木 美乃	リハビリテーション科	¥200,000	補	文部科学研究費
パーキンソン病の姿勢障害に対する経脊髄磁気刺激を併用した新たな治療法の確立	植木 美乃	リハビリテーション科	¥1,000,000	委	公益財団法人磁気健康化学研究振興財団
MRIを用いた早期アルツハイマー病診断技術の開発	植木 美乃	リハビリテーション科	¥1,500,000	委	中部電力利用基礎研究振興財団
C型肝炎の新規診断法や新規治療法を開発するためのゲノムワイド関連解析の手法を用いた宿主因子の解析に関する研究	田中 靖人	中央臨床検査部	¥38,856,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
B型肝炎ウイルスの持続感染を再現する効率的な培養細胞評価系の開発に関する研究	田中 靖人	中央臨床検査部	¥79,240,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
iPS細胞を活用したヒトキメラマウス肝炎発症モデルの開発とその臨床応用	田中 靖人	中央臨床検査部	¥5,850,000	補	文部科学省
小児期のウイルス性肝炎の病態解明や科学的根拠の集積等に関する研究	田中 靖人	中央臨床検査部	¥1,600,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
Drug freeからHBs抗原消失を目指すB型肝炎抗ウイルス療法とこの効果を予測する新規因子の検討	田中 靖人	中央臨床検査部	¥2,600,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
C型肝炎の病態増悪に関わる腸内細菌叢由来因子の同定	井上 貴子	中央臨床検査部	¥1,950,000	補	文部科学省
小児におけるB型肝炎の水平感染の実態把握とワクチン戦略の再構築に関する研究	井上 貴子	中央臨床検査部	¥300,000	補	厚生労働省

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	赤津裕康	地域医療教育学 総合内科・総合診療科	Enhanced vaccination effect against influenza by prebiotics in elderly patients receiving enteral nutrition.	雑誌名: Geriatr Gerontol Int. 巻数(号数): 16 (2) 出版年: 2016 ページ: 205-213
2	谷田諭史	消化器内科	Managing refractory Crohn's disease: challenges and solutions.	Clin Exp Gastroenterol. 2015 Apr 10;8:131-40.
3	谷田諭史	消化器内科	Advances in refractory ulcerative colitis treatment: A new therapeutic target, Annexin A2.	World J Gastroenterol. 2015 Aug 7;21(29):8776-86.
4	谷田諭史	消化器内科	Combination Therapy With Adalimumab Plus Intensive Granulocyte and Monocyte Adsorptive Apheresis in Patients With Refractory Ulcerative Colitis.	J Clin Med Res. 2015 Nov;7(11):884-9.
5	澤田 武	消化器内科	Esophageal Ulcer in a Lung Cancer Patient. Crizotinib-induced Esophageal Injury.	Gastroenterology. 2015 Aug;149(2):e6-7.
6	溝下 勉	消化器内科	Adalimumab treatment in intestinal Behçet's disease: Relationship with ectopic mucin 5AC glycoprotein expression and endoscopic improvement.	Dig Liver Dis. 2015 Nov;47(11):991-2.
7	宮部勝之	肝臓内科	Locus/chromosome aberrations in intraductal papillary mucinous neoplasms analyzed by fluorescence in situ hybridization.	Am J Surg Pathol. 2015 Apr;39(4):512-20.
8	宮部勝之	肝臓内科	Safety and benefits of self-expandable metallic stents with chemotherapy for malignant gastric outlet obstruction.	Dig Endosc. 2015 Jul;27(5):572-81.
9	内藤 格	肝臓内科	Comparison of intraductal ultrasonography findings between primary sclerosing cholangitis and IgG4-related sclerosing cholangitis.	J Gastroenterol Hepatol. 2015 Jun;30(6):1104-9.

10	内藤 格	肝臓内科	8-mm versus 10-mm diameter self-expandable metallic stent in bilateral endoscopic stent-in-stent deployment for malignant hilar biliary obstruction.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2015 May;22(5):396-401.
11	堀 寧	肝臓内科	Stent under-expansion on the procedure day, a predictive factor for poor oral intake after metallic stenting for gastric outlet obstruction.	J Gastroenterol Hepatol. 2015 Aug;30(8):1246-51.
12	西 祐二	肝臓内科	Use of a scissors forceps for the endoscopic removal of a distally migrated self-expandable metallic stent adhering to the duodenal mucosa.	Endoscopy. 2015;47 Suppl 1 UCTN:E98-9.
13	清水周哉	肝臓内科	Case of arterial hemorrhage after endoscopic papillary large balloon dilation for choledocholithiasis using a covered self-expandable metallic stent.	World J Gastroenterol. 2015 Apr 28;21(16):5090-5.
14	清水周哉	肝臓内科	Correlation between long-term outcome and steroid therapy in type 1 autoimmune pancreatitis: relapse, malignancy and side effect of steroid.	Scand J Gastroenterol. 2015;50(11):1411-8.
15	内藤 格	肝臓内科	A cholecystocolonic fistula caused by penetration of a double-pigtail plastic stent after endoscopic transpapillary gallbladder stenting.	Endoscopy. 2015;47 Suppl 1 UCTN:E399-400.
16	清水周哉	肝臓内科	Photodynamic Therapy using Talaporfin Sodium for the Recurrence of Cholangiocarcinoma after Surgical Resection.	Intern Med. 2015;54(18):2321-6.
17	飯尾 悦子	肝臓内科	A novel glyco-biomarker, Wisteria floribunda agglutinin macrophage colony-stimulating factor receptor, for predicting carcinogenesis of liver cirrhosis.	Int J Cancer. 2016 Mar 15;138(6):1462-71.
18	加藤晃久	肝臓内科	Chemopreventive effect of resveratrol and apocynin on pancreatic carcinogenesis via modulation of nuclear phosphorylated GSK3 β and ERK1/2.	Oncotarget. 2015 Dec 15;6(40):42963-75.
19	内藤 格	肝臓内科	Endoscopic retrograde cholangiopancreatography-related adverse events in patients with type 1 autoimmune pancreatitis.	Pancreatology. 2016 Jan-Feb;16(1):78-82.
20	内藤 格	肝臓内科	Predictive factors for positive diagnosis of malignant biliary strictures by transpapillary brush cytology and forceps biopsy.	J Dig Dis. 2016 Jan;17(1):44-51.

21	松浦健太郎	肝臓内科	Host genetic variants influencing the clinical course of hepatitis C virus infection.	J Med Virol. 2016 Feb;88(2):185-95.
22	松浦健太郎	肝臓内科	Host genetic variants influencing the clinical course of hepatitis B virus infection..	J Med Virol. 2016 Mar;88(3):371-9.
23	浅野 貴光	呼吸器・アレルギー内科	The effect of bevacizumab for bone scintigraphy imaging: a case report.	雑誌名: J Cancer Res Ther 巻数(号数): 11 出版年: 2015 ページ: 652
24	高桑 修	呼吸器・アレルギー内科	Long-term usage of a once-a-day fentanyl citrate transdermal patch in lung cancer patients. Oncol Lett.	雑誌名: Oncol Lett 巻数(号数): 9 出版年: 2015 ページ: 2105-2108
25	大久保 仁嗣	呼吸器・アレルギー内科	A rare case of IgG4-related disease involving the uterus.	雑誌名: Rheumatology 巻数(号数): 54(6) 出版年: 2015 ページ: 1124-1125
26	大久保 仁嗣	呼吸器・アレルギー内科	A Proposal for a Prospective Trial for Establishing Evidence.	雑誌名: Intern Med 巻数(号数): 2015 出版年: 54(17) ページ: 2099-2100
27	大久保 仁嗣	呼吸器・アレルギー内科	Corticosteroid Treatment for Acute Respiratory Distress Syndrome. Intern Med	雑誌名: Intern Med 巻数(号数): 54(12) 出版年: 2015 ページ: 1463-1464
28	國井 英治	呼吸器・アレルギー内科	Reversal of c-Met-mediated resistance to cytotoxic anticancer drugs by a novel c-Met inhibitor TAS-115.	雑誌名: Anticancer Res 巻数(号数): 35 出版年: 2015 ページ: 5241-8
29	國井 英治	呼吸器・アレルギー内科	Organic cation transporter OCT6 mediates cisplatin uptake and resistance to cisplatin in lung cancer.	雑誌名: Cancer Chemother Pharmacol 巻数(号数): 75 出版年: 2015 ページ: 985-91
30	伊藤 穰	呼吸器・アレルギー内科	Increasing patients with pulmonary Mycobacterium avium complex disease and associated underlying diseases in Japan	雑誌名: J Infect Chemother 巻数(号数): 21 出版年: 2015 ページ: 352-6

31	大久保 仁嗣	呼吸器・アレルギー内科	Normal Lung Quantification in Usual Interstitial Pneumonia Pattern: The Impact of Threshold-based Volumetric CT Analysis for the Staging of Idiopathic Pulmonary Fibrosis.	雑誌名:Plos One 巻数(号数):11(3) 出版年:2016 ページ:e0152505
32	Yoshida T	血液・腫瘍内科学	Podoplanin-positive cancer-associated fibroblasts in the tumor microenvironment induce primary resistance to EGFR-TKIs in lung adenocarcinoma with EGFR mutation.	雑誌名:Clin Cancer Res 巻数(号数):21(3) 出版年:2015 ページ:642-651
33	Ishida T	血液・腫瘍内科学	Dose-intensified chemotherapy alone or in combination with mogamulizumab in newly diagnosed aggressive ATL: a randomized phase II study.	雑誌名:Br J Haematol. 巻数(号数):169 出版年:2015 ページ:672-82
34	Narita T	血液・腫瘍内科学	t(14;16)-positive multiple myeloma shows negativity for CD56 expression and unfavorable outcome even in the era of novel drugs.	雑誌名:Blood Cancer J 巻数(号数):5 出版年:2015 ページ:e285
35	Kusumoto S	血液・腫瘍内科学	Phase I study of pegylated liposomal doxorubicin in combination with bortezomib for Japanese patients with relapsed or refractory multiple myeloma.	雑誌名:Int J Hematol 巻数(号数):101 出版年:2015 ページ:578-584
36	Totani H	血液・腫瘍内科学	Reactivation of hepatitis B virus (HBV) infection in adult T-cell leukemia-lymphoma patients with resolved HBV infection following systemic chemotherapy.	雑誌名:Int J Hematol 巻数(号数):101 出版年:2015 ページ:398-404
37	Masaki A	血液・腫瘍内科学	Prognostic significance of tryptophan catabolism in adult T-cell leukemia/lymphoma.	雑誌名:Clin Cancer Res 巻数(号数):21 出版年:2015 ページ:2830-2839
38	Narita T	血液・腫瘍内科学	Lower expression of activating transcription factor 3 and 4 correlates with shorter progression-free survival in multiple myeloma patients receiving bortezomib plus dexamethasone therapy.	雑誌名:Blood Cancer J 巻数(号数):5 出版年:2015 ページ:e373
39	Iida S	血液・腫瘍内科学	Overview: A new era of cancer genomics in lymphoid malignancies.	雑誌名:Oncology 巻数(号数):89(suppl 1) 出版年:2015 ページ:4-6
40	Ishida T	血液・腫瘍内科学	Dose-intensified chemotherapy alone or in combination with mogamulizumab in newly diagnosed aggressive ATL: a randomized phase II study.	雑誌名:Br J Haematol. 巻数(号数):169 出版年:2015 ページ:672-82
41	市橋拓	心臓・腎高血圧内科学	Acute myocardial infarction due to spontaneous, localized, acute dissection of the sinus of Valsalva detected by intravascular ultrasound and electrocardiogram-gated computed tomography.	雑誌名:Heart Vessels 巻数(号数):31(9) 出版年:2015 ページ:1570-3

42	市橋拓	心臓・腎高血圧内科学	Safety and utility of total percutaneous endovascular aortic repair with a single Perclose ProGlide closure device.	雑誌名: J Vasc Surg 巻数(号数): 63(3) 出版年: 2015 ページ: 585-8
43	伊藤剛	心臓・腎高血圧内科学	Electrocardiographic changes associated with takotsubo cardiomyopathy in a patient with pre-existing left bundle branch block.	雑誌名: Heart Vessels 巻数(号数): 31(8) 出版年: 2015 ページ: 1393-6
44	伊藤剛	心臓・腎高血圧内科学	Impact of lesion morphology on angiographic and clinical outcomes in patients with chronic total occlusion after recanalization with drug-eluting stents: a multislice computed tomography study.	雑誌名: Eur Radiol. 巻数(号数): 25(10) 出版年: 2015 ページ: 3084-92
45	伊藤剛	心臓・腎高血圧内科学	Malondialdehyde-modified low-density lipoprotein is a predictor of cardiac events in patients with stable angina on lipid-lowering therapy after percutaneous coronary intervention using drug-eluting stent.	雑誌名: Atherosclerosis. 巻数(号数): 239(2) 出版年: 2015 ページ: 311-7
46	伊藤剛	心臓・腎高血圧内科学	Increased circulating malondialdehyde-modified low-density lipoprotein levels in patients with ergonovine-induced coronary artery spasm.	雑誌名: Int J Cardiol. 巻数(号数): 184 出版年: 2015 ページ: 475-80
47	杉浦知範	心臓・腎高血圧内科学	Circulating Level of MicroRNA-126 may be a Potential Biomarker for Recovery from Smoking-Related Vascular Damage in Middle-Aged Habitual Smokers.	雑誌名: IJC Heart & Vasculature 巻数(号数): 7 出版年: 2015 ページ: 83-7
48	杉浦知範	心臓・腎高血圧内科学	Dietary sodium consumption predicts future blood pressure and incident hypertension in the Japanese normotensive general population.	雑誌名: JAHA 巻数(号数): 4(8) 出版年: 2015 ページ: e1959
49	Kimura M	消化器・一般外科	Bypass operation as palliation for unresectable esophageal cancer: selection of suitable patients.	雑誌名: Hepatogastroenterology 巻数(号数): 62(140) 出版年: 2015 ページ: 794-6
50	Kimura M	消化器・一般外科	Weak points of a stapled side-to-side anastomosis.	雑誌名: Hepatogastroenterology 巻数(号数): 62(140) 出版年: 2015 ページ: 924-6
51	Morimoto M	消化器・一般外科	Laparoscopic-assisted total gastrectomy for early gastric cancer with situs inversus totalis: report of a first case.	雑誌名: BMC Surg 巻数(号数): 15(75) 出版年: 2015 ページ: 1-7

52	Sato T	消化器・一般外科	Laparoscopic resection of retroperitoneal lymphangioma around the pancreas: a case report and review of the literature.	雑誌名: J Med Case Rep 巻数(号数): 9 出版年: 2015 ページ: 1-4
53	Shiga K	消化器・一般外科	Cancer-associated fibroblasts: Their characteristics and their roles in tumor growth.	雑誌名: Cancers(Basel) 巻数(号数): 7 出版年: 2015 ページ: 2443-58
54	Sagawa H	消化器・一般外科	Connexin 32 and luteolin play protective roles in non-alcoholic steatohepatitis development and its related hepatocarcinogenesis in rats.	雑誌名: Carcinogenesis 巻数(号数): 36(12) 出版年: 2015 ページ: 1539-49
55	Kimura M	消化器・一般外科	Profiling surgical staplers: Does staple direction affect the strength of the anastomosis.	雑誌名: Dig Surg 巻数(号数): 32(6) 出版年: 2015 ページ: 454-8
56	Kimura M	消化器・一般外科	A new method of esophageal bypass: Gastric tube with good flexibility and a safe anastomosis.	雑誌名: J Am Coll Surg 巻数(号数): 221(6) 出版年: 2015 ページ: e119-23
57	Shiga K	消化器・一般外科	Preoperative serum interleukin-6 is a potential prognostic factor for colorectal cancer, including stage II patients.	雑誌名: Gastroenterol Res Pract 巻数(号数): 2016 出版年: 2016 ページ: 1-8
58	Hara M	消化器・一般外科	Suppression of cancer-associated fibroblasts and endothelial cells by itraconazole in bevacizumab-resistant gastrointestinal cancer.	雑誌名: Anticancer Res 巻数(号数): 36(1) 出版年: 2016 ページ: 169-77
59	Ishiguro H	消化器・一般外科	GADD45A expression is correlated with patient prognosis in esophageal cancer.	雑誌名: Oncol Lett 巻数(号数): 11(1) 出版年: 2016 ページ: 277-82
60	Tanaka T	消化器・一般外科	Connexin 43 expression is associated with poor survival in patients with esophageal squamous cell carcinoma.	雑誌名: Mol Clin Oncol 巻数(号数): 4 出版年: 2016 ページ: 989-93
61	彦坂 雄	呼吸器外科	Post-irradiation constrictive pericarditis following thymoma treatment: a report of two cases.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2015 Jul;63(7):413-5
62	奥田勝裕	呼吸器外科	A safe method for making small pulmonary nodules with crystal violet.	Surg Today. 2015 Jul;45(7):871-5

63	立松 勉	呼吸器外科	Intra-tumor-heterogeneity of BRAF V600E mutation in lung adenocarcinomas.	Experimental and Therapeutic medicine. 2015 May; 9(5):1719-1722
64	奥田勝裕	呼吸器外科	A case of mediastinum undifferentiated high grade pleomorphic sarcoma.	Int J Clin Exp Med. 2015 Oct 15;8(10):19566-70
65	川瀬麻衣	乳腺外科	FOXA1 expression after neoadjuvant chemotherapy is a prognostic marker in estrogen receptor-positive breast cancer.	Breast Cancer. 2015 May;22(3):308-16
66	遠藤(鰐淵)友美	乳腺外科	HER2 mutation status in Japanese HER2-positive breast cancer patients.	Breast Cancer 卷数(号数): 2015 Dec Epub ahead of print
67	黒柳 元	整形外科	Mimosine suppresses the PGF2 α -induced synthesis of osteoprotegerin but not interleukin-6 in osteoblasts.	Int J Mol Med. 2016 Feb;37(2):533-41.
68	早川 和男	整形外科	Glial restricted precursors maintain their permissive properties after long-term expansion but not following exposure to pro-inflammatory factors.	Brain Res. 2015 Dec 10;1629:113-25.
69	山本 尚洋	整形外科	Amplification by (-)-epigallocatechin gallate and chlorogenic acid of TNF- α -stimulated interleukin-6 synthesis in osteoblasts.	Int J Mol Med. 2015 Dec;36(6):1707-12.
70	武長 徹也	整形外科	Posterior Shoulder Capsules Are Thicker and Stiffer in the Throwing Shoulders of Healthy College Baseball Players: A Quantitative Assessment Using Shear-Wave Ultrasound Elastography.	Am J Sports Med. 2015 Dec;43(12):2935-42.
71	貝沼 慎悟	整形外科	PGD2 stimulates osteoprotegerin synthesis via AMP-activated protein kinase in osteoblasts: Regulation of ERK and SAPK/JNK.	Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids. 2015 Oct;101:23-9.
72	吉田 雅人	整形外科	Quantitative analysis of attachment of the labrum to the glenoid fossa: a cadaveric study.	J Orthop Sci. 2015 Sep;20(5):823-9.
73	黒柳 元	整形外科	Unphosphorylated HSP27 (HSPB1) regulates the translation initiation process via a direct association with eIF4E in osteoblasts.	Int J Mol Med. 2015 Sep;36(3):881-9.

74	黒柳 元	整形外科	Resveratrol amplifies BMP-4-stimulated osteoprotegerin synthesis via p38 MAP kinase in osteoblasts.	Mol Med Rep. 2015 Sep;12(3):3849-54.
75	黒柳 元	整形外科	Resveratrol suppresses TGF- β -induced VEGF synthesis in osteoblasts: Inhibition of the p44/p42 MAPKs and SAPK/JNK pathways.	Exp Ther Med. 2015 Jun;9(6):2303-2310.
76	服部 一希	整形外科	An anatomic study of the accessory anterolateral talar facet.	Folia Morphol (Warsz). 2015;74(1):61-4.
77	松本 佳久	整形外科	New Protocol to Optimize iPS Cells for Genome Analysis of Fibrodysplasia Ossificans Progressiva.	Stem Cells. 2015 Jun;33(6):1730-42.
78	吉田 雅人	整形外科	Postoperative evaluation of drill holes for arthroscopic Bankart repair with suture anchors by the use of computed tomography.	J Orthop Sci. 2015 May;20(3):481-7.
79	多和田 兼章	整形外科	Is the canal flare index a reliable means of estimation of canal shape? Measurement of proximal femoral geometry by use of 3D models of the femur.	J Orthop Sci. 2015 May;20(3):498-506.
80	山本 尚洋	整形外科	Rac limits TGF- β -induced VEGF synthesis in osteoblasts.	Mol Cell Endocrinol. 2015 Apr 15;405:35-41.
81	Sugiura-Ogasawara M	産科婦人科学	Real-world practice of obstetricians in respect of assays for antiphospholipid antibodies.	雑誌名:Molecular Rheumatology 巻数(号数):25(6) 出版年:2015 ページ:883-7
82	Kitaori T	産科婦人科学	Determination of clinically significant tests for antiphospholipid antibodies and cutoff levels for obstetric antiphospholipid syndrome.	雑誌名:Lupus 巻数(号数):24(14) 出版年:2015 ページ:1505-1519
83	Katano K	産科婦人科学	Conservative therapy with a gonadotropin-releasing hormone agonist for a uterine arteriovenous malformation in a patient with congenital heart disease.	雑誌名:Clon Case Rep 巻数(号数):3(6) 出版年:2015 ページ:479-82

84	Suzumori N	産科婦人科学	Clinical and molecular findings in a patient with 46,XX/47,XX,+14 mosaicism caused by postzygotic duplication of a paternally derived chromosome 14.	雑誌名:Am J Med Genet A 巻数(号数):167 出版年:2015 ページ:2474-2477
85	Suzumori N	産科婦人科学	Parental decisions following prenatal diagnosis of chromosomal abnormalities: Implications for genetic counseling practice in Japan.	雑誌名:J Genet Counsel 巻数(号数):24 出版年:2015 ページ:117-121
86	大橋 圭	小児科	Concordance of classifications using DSM-5 and DSM-IV-TR criteria for autism spectrum disorder	雑誌名:Pediatrics International 巻数(号数):57 出版年:2015 ページ:1097-1100
87	加藤沙耶香	小児科	Pitfall in the Diagnosis of Fructose-1, 6-Bisphosphatase Deficiency:Difficulty in Detecting Glycerol-3-Phosphate with Solvent Extraction in Urinary GC/MS Analysis.	雑誌名:The Tohoku Journal of Experimental Medicine 巻数(号数):237 出版年:2015 ページ:235-239
88	川瀬恒哉	小児科	Nemaline myopathy with KLHL40 mutation presenting as congenital totally locked-in state.	雑誌名:Brain Dev 巻数(号数):37 出版年:2015 ページ:887-890
89	篠原 務	小児科	Macitentan reverses early obstructive pulmonary vasculopathy in rats: Early intervention in overcoming the survivin-mediated resistance to apoptosis.	雑誌名:American Journal of Physiology - Lung Cellular and Molecular Physiology 巻数(号数):308 出版年:2015 ページ:523-538
90	根岸 豊	小児科	Truncating mutation in NFIA causes brain malformation and urinary tract defects.	雑誌名:Hum Genome 巻数(号数):2 出版年:2015 ページ:15007
91	堀 いくみ	小児科	Diffuse alveolar hemorrhage secondary to ANCA-associated vasculitis in a patient with Down syndrome.	雑誌名:Pediatr Int 巻数(号数):55 出版年:2015 ページ:161-163
92	鈴木 識裕	眼科	Microvascular abnormalities on optical coherence tomography angiography in macular edema associated with branch retinal vein occlusion.	Am J Ophthalmol 161 2016 126-132
93	高瀬 範明	眼科	Enlargement of foveal avascular zone in diabetic eyes evaluated by en face optical coherence tomography angiography.	Retina 35(11) 2015 2377-2383

94	小椋 俊太郎	眼科	Indocyanine green angiography-guided focal laser photocoagulation for diabetic macular edema.	Ophthalmologica 234(3) 2015 139-150
95	永井 博之	眼科	Prevention of increased abnormal fundus autofluorescence with blue light-filtering intraocular lenses.	J Cataract Refract Surg 41(9) 2015 1855-1859
96	伊地知圭	耳鼻咽喉科	A technique for pre-operative identification of the facial nerve mandibular branch using a nerve stimulator.	雑誌名: Journal of Craniofacial Surgery 巻数(号数): 26 出版年: 2015 ページ: 1660-1662
97	江崎伸一	耳鼻咽喉科	Facial nerve palsy after reactivation of herpes simplex virus type 1 in diabetic mice.	雑誌名: Laryngoscope 巻数(号数): 125(4) 出版年: 2015 ページ: 143-148
98	伊地知圭	耳鼻咽喉科	Peripheral primitive neuroectodermal tumor in larynx: Case report and literature.	雑誌名: Oncology Letters 巻数(号数): 出版年: 2015 ページ:
99	中山明峰	睡眠医療センター	A Pilot Study on the Efficacy of Continuous Positive Airway Pressure on the Manifestations of Ménière's Disease in Patients with Concomitant Obstructive Sleep Apnea Syndrome.	雑誌名: J Clin Sleep Med. 巻数(号数): 11(10) 出版年: 2015 ページ: 1101-1107
100	Motoki Nakamura	皮膚科	Site-specific migration of human fetal melanocytes in volar skin.	雑誌名: Journal of Dermatol Science 巻数(号数): 78(2) 出版年: 2015 ページ: 143-148
101	Etani Toshiki	泌尿器科	A case of renal primitive neuroectodermal tumor confirmed by fluorescence in situ hybridization.	雑誌名: Case Reports in Oncology 巻数(号数): 8(1) 出版年: 2015 ページ: 205-211
102	Okada Atsushi	泌尿器科	Neuroendocrine carcinoma of the kidney and bladder with loss of heterozygosity and changes in chromosome 3 copy number.	雑誌名: American Journal of Case Report 巻数(号数): 16 出版年: 2015 ページ: 611-616

103	Hirose Masahito	泌尿器科	Clear cell sarcoma of the kidney distinguished from synovial sarcoma using genetic analysis: a case report.	雑誌名: BMC Research Notes 巻数(号数): 8 出版年: 2015 ページ: 129
104	Okamura Takehiko	泌尿器科	Importance of prostate-specific antigen screening before and after bacillus Calmette-Guérin intravesical bladder instillation treatment to avoid unnecessary prostate biopsy	雑誌名: International Archives of Urology and Complications 巻数(号数): 1 出版年: 2015 ページ: 1
105	Taguchi Kazumi	泌尿器科	Proinflammatory and metabolic changes facilitate renal crystal deposition in an obese mouse model of metabolic syndrome.	雑誌名: Journal of Urology 巻数(号数): 194(6) 出版年: 2015 ページ: 1787-1796
106	Taguchi Kazumi	泌尿器科	First case report of staghorn calculi successfully removed by mini-endoscopic combined intrarenal surgery in a 2-year-old boy.	雑誌名: International Journal of Urology 巻数(号数): 22(10) 出版年: 2015 ページ: 978-980
107	Yasui Takahiro	泌尿器科	Laparoscopic versus open radical cystectomy for patients older than 75 years: a single-center comparative analysis.	雑誌名: Asian Pacific Journal of Cancer Prevention 巻数(号数): 16(15) 出版年: 2015 ページ: 6353-6358
108	Iida Keitaro	泌尿器科	A case of metastatic urothelial carcinoma treated with pemetrexed as third-line chemotherapy with discussion and literature review.	雑誌名: Case Reports in Oncology 巻数(号数): 8 出版年: 2015 ページ: 530-535
109	Iida Keitaro	泌尿器科	Bacillus Calmette-Guérin therapy after the second transurethral resection significantly decreases recurrence in patients with new onset high-grade T1 bladder cancer.	雑誌名: BMC Urology 巻数(号数): 16 出版年: 2015 ページ: 8
110	Nishio Hidenori	泌尿器科	Hemiscrotal agenesis: Pathogenesis and management strategies.	雑誌名: International Journal of Urology 巻数(号数): 23 出版年: 2016 ページ: 523-526

111	Nagai Takashi	泌尿器科	Pure lymphoepithelioma-like carcinoma originating from the urinary bladder.	雑誌名:Case Reports in Oncology 巻数(号数):9 出版年:2016 ページ:188-194
112	Unno Rei	泌尿器科	Treatment strategy for pediatric paratesticular rhabdomyosarcoma based on chimeric gene assessment.	雑誌名:Urology 巻数(号数):95 出版年:2016 ページ:187-189
113	明智 龍男	精神科	Brief screening of patients with distressing fear of recurrence in breast cancer survivors. Brief screening of patients with distressing fear of recurrence in breast cancer survivors.	Breast Cancer Res Treat.153(2).2015.475-6
114	明智 龍男	精神科	Anxiety in disease-free breast cancer patients might be alleviated by provision of psychological support, not of information.	Jpn J Clin Oncol.45(10).2015.929-33.
115	伊藤 嘉規	精神科	Good death for children with cancer: a qualitative study.	Jpn J Clin Oncol. 2015.45(4):349-55.
116	奥山 徹	精神科	Screening Performance for Frailty Among Older Patients With Cancer: A Cross-Sectional Observational Study of Two Approaches.	J Natl Compr Canc Netw.2015.13(12):1525-31.
117	内田 恵	精神科	Prevalence, course and factors associated with delirium in elderly patients with advanced cancer: a longitudinal observational study.	Jpn J Clin Oncol. 2015 .45(10):934-40.
118	明智 龍男	精神科	Author reply: Brief screening of breast cancer survivors with distressing fear of recurrence Breast Cancer Res Treat	Breast Cancer Res Treat、online、2016
119	小川 成	精神科	The relationships between symptoms and quality of life over the course of cognitive-behavioral therapy for panic disorder in Japan Asia-Pacific psychiatry	official journal of the Pacific Rim College of Psychiatrists ,2016

120	小川 成	精神科	Anxiety sensitivity and comorbid psychiatric symptoms over the course of cognitive behavioral therapy for panic disorder British Journal of Medicine & Medical Research	British J of Medicine & Medical Research , 13:1-7, 2016
121	山田 敦朗	精神科	Long-term poor rapport, lack of spontaneity and passive social withdrawal related to acute post-infectious encephalitis: a case report.	Springerplus. 18;5:345,2016
122	芝本雄太	放射線科	Stereotactic body radiotherapy using a radiobiology-based regimen for stage I non-small-cell lung cancer. Five-year mature results	雑誌名: Journal of Thoracic Oncology 巻数(号数):10(6) 出版年:2015 ページ:960-964
123	芝本雄太	放射線科	The expanding role of radiation oncology in Japan	雑誌名: International Journal of Radiation Oncology Biology Physics 巻数(号数):92(2) 出版年:2015 ページ:200-203
124	下平政史	放射線科	Triaxial system in bronchial arterial embolization for haemoptysis using N-butyl-2-cyanoacrylate	Br J Radiol. 2015;88(1056):20150265
125	下平政史	放射線科	Reperfusion Rates of Pulmonary Arteriovenous Malformations after Coil Embolization: Evaluation with Time-Resolved MR Angiography or Pulmonary Angiography.	J Vasc Interv Radiol. 2015 Jun;26(6):856-864.e1.
126	杉江愛生	放射線科	Efficacy of the Dynamic Jaw Mode in Helical Tomotherapy With Static Ports for Breast Cancer.	Technol Cancer Res Treat. 2015 Aug;14(4):459-65.
127	小川 正樹	放射線科	Shortened breath-hold contrast-enhanced MRI of the liver using a new parallel imaging technique, CAIPIRINHA (controlled aliasing in parallel imaging results in higher acceleration): a comparison with conventional GRAPPA technique.	Abdom Imaging. 2015 Oct;40(8):3091-8.

128	村井太郎	放射線科	Re-irradiation of recurrent anaplastic ependymoma using radiosurgery or fractionated stereotactic radiotherapy.	Japanese Journal of Radiology 2016 Mar;34(3):211-8..
129	中川基生	放射線科	Utility of dual source CT with ECG-triggered high-pitch spiral acquisition (Flash Spiral Cardio mode) to evaluate morphological features of ventricles in children with complex congenital heart defects.	Jpn J Radiol. 2016 Apr;34(4):284-91. doi: 10.1007/s11604-016-0522-x. Epub 2016 Jan 28.
130	中川基生	放射線科	Image quality at low tube voltage (70 kV) and sinogram-affirmed iterative reconstruction for computed tomography in infants with congenital heart disease.	Pediatr Radiol. 2015 Sep;45(10):1472-9. doi: 10.1007/s00247-015-3372-2. Epub 2015 Jun 27.
131	Nobukata Kazawa	放射線科	The MRI Imaging of Cerebral Cavernous Malformation With Practical Use of Diffusion Weighted Image	International Journal of Radiology,2,1.29-37,2015
132	眞鍋良彦	放射線科	Helical and static-port tomotherapy using the newly-developed dynamic jaws technology for lung cancer,	雑誌名 : Technol Cancer Res Treat 巻数(号数) : 14 出版年 : 2015 ページ : 583-591
133	鈴木一史	放射線科	Stent Placement for Acute Superior Mesenteric Artery Occlusion Associated with Type B Aortic Dissection.	Case Rep Vasc Med. 2015;2015:485141. doi: 10.1155/2015/485141. Epub 2015 May 25.
134	太田賢吾	放射線科	Transarterial Fiducial Marker Placement for Image-guided Proton Therapy for Malignant Liver Tumors.	Cardiovasc Intervent Radiol. 2015 Oct;38(5):1288-93. doi: 10.1007/s00270-014-1013-z. Epub 2014 Nov 5.
135	太田賢吾	放射線科	Percutaneous fiducial marker placement prior to stereotactic body radiotherapy for malignant liver tumors: an initial experience.	J Radiat Res. 2016 Mar;57(2):174-7. doi: 10.1093/jrr/rrv099. Epub 2016 Jan 28.

136	片野 広之	脳神経外科	Calcified carotid plaques show double symptomatic peaks according to Agatston calcium score	雑誌名: J Stroke Cerebrovasc Dis 巻数(号数): 24 出版年: 2015 ページ: 1341-1350
137	片野 広之	脳神経外科	he relationship between carotid plaque calcification and symptoms analyzed by calcium score.	雑誌名: Atherosclerosis 巻数(号数): 241 出版年: 2015 ページ: e85-86
138	相原 徳孝	脳神経外科	Enlargement of the Internal Auditory Canal and Hearing Preservation in the Middle Fossa Approach for Intracanalicular Vestibular Schwannomas.	雑誌名: World Neurosurg 巻数(号数): 84(6) 出版年: 2015 ページ: 1950-1955
139	金山 健夫	歯科口腔外科	Crestal approach to sinus floor elevation for atrophic maxilla	雑誌名: Implant Dentistry 巻数(号数): 出版年: ページ:

計139件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
~				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 目的と適用範囲、責務、構成、委員長の選任方法、開催、成立要件、資料、調査・審議・報告事項、病院長に答申する事項、会議の運営・記録に関する事項、事務局、記録の保存	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 大学としての利益相反の指針を示す「利益相反ポリシー」のもと、「利益相反マネジメント規程」並びに「大学院医学研究科医学研究等利益相反委員会規程」を制定し、毎年利益相反に関する自己申告書を提出のうえ、必要に応じて適宜ヒアリングを実施している。 また、利益相反に関する専門的事項について調査及び審議するため、全学的な組織として外部専門家を含めた利益相反委員会を設置しているほか、別途、医学研究等にかかる利益相反に関する事項を審議するため、医学研究科内に大学院医学研究科医学研究等利益相反委員会を設置し、適切な管理に努めている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 2 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容 平成27年度研究不正防止等説明会（総務課・学術課）（実施日：H27/7/9、7/25）	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科において、診療科部長又は部長代理を研修統括者とした指導体制を整備し、各領域の専門医資格取得を目指し、目標、指導体制、診療実績、連携施設等を含めた研修プログラムをホームページで明示している。

なお、当初は平成29年度開始を予定していた「新たな専門医の仕組み」に対応する基本領域のプログラム整備は完了しており、平成29年度中までには検討される見込みである日本専門医機構並びに各学会の意向を反映すれば形成外科を除くすべての領域において基幹施設となることができる。

2 研修の実績

研修医の人数	55.8	人
--------	------	---

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数		特記事項
兼松 孝好	総合内科・総合診療科	部長代理	23	年	
城 卓志	消化器内科	部長	38	年	
野尻 俊輔	肝・膵臓内科	部長	26	年	
新実 彰男	呼吸器・アレルギー内科	部長	31	年	
難波 大夫	リウマチ・膠原病内科	部長	22	年	
大手 信之	循環器内科	部長	35	年	
今枝 憲郎	内分泌・糖尿病内科	部長	27	年	
飯田 真介	血液・腫瘍内科	部長	29	年	
松川 則之	神経内科	部長	28	年	
福田 道雄	腎臓内科	部長	26	年	
竹山 廣光	消化器・一般外科	部長	37	年	
中西 良一	呼吸器外科	部長	31	年	
三島 晃	心臓血管外科	部長	35	年	
近藤 知史	小児外科	部長	32	年	
遠山 竜也	乳腺外科	部長	27	年	
大塚 隆信	整形外科	部長	37	年	
杉浦 真弓	産科婦人科	部長	31	年	
齋藤 伸治	小児科	部長	31	年	
小椋 祐一郎	眼科	部長	36	年	
村上 信五	耳鼻いんこう科	部長	36	年	
鳥山 和宏	形成外科	部長	27	年	
森田 明理	皮膚科	部長	27	年	
安井 孝周	泌尿器科	部長	22	年	
明智 龍男	精神科	部長	25	年	
芝本 雄太	放射線科	部長	36	年	

祖父江 和哉	麻酔科	部長	23	年	
間瀬 光人	脳神経外科	部長	31	年	
渋谷 恭之	歯科口腔外科	部長	27	年	
和田 郁雄	リハビリテーション科	部長	38	年	
稲垣 宏	病理診断部	部長	32	年	
笹野 寛	救急科	部長	29	年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

【看護師】（別紙資料 1 参照）

【薬剤師】

<名市大連携病院合同化学療法勉強会>

	テーマ	参加者数
第1回（6/17）：	1. 化学療法・分子標的療法、2. 免疫療法・その他	193名
第2回（7/22）：	漏出、CVポート/アレルギー	129名
第3回（8/19）：	1. 薬物療法の副作用対策、2. 抗がん剤曝露	177名
第4回（9/16）：	1. 悪心、嘔吐、2. 栄養管理	135名
第5回（10/21）：	1. 発熱性好中球減少症、2. HBV再活性化	113名
第6回（11/18）：	Oncology emergency/腫瘍崩壊症候群	85名
第7回（12/16）：	緩和ケア	90名

<薬剤部 勉強会（症例検討会含む）>

新薬説明会：H27年度中に32回実施、のべ出席者数223名

症例検討会：H27年度中に13回実施、のべ出席者数293名

【臨床検査技師】

月に1・2回開催される部内勉強会において以下の内容で研修を実施している。

- ①検査結果の精度保証と運用上の安全管理を目的とした現行の業務内容・運用手順に関する研修
- ②高度な医療技術の提供を目指した、最新の検査技術、機器・試薬に関する研修
- ③医学・医療技術学の教育・研究に貢献するため、臨床検査分野の研究・検討に関する発表
「乳がん症例検討」・「検査の基礎：検体の取扱法と注意点」・「当直時間帯における血液製剤の外観確認について」・「スキャッタグラムについて」・「血液の分化と血液疾患」・「採血室クレーマー患者の実例と対策」・「腎臓の働きと尿検査」・「認定病理検査技師制度について」・「肝線維化とFibro Scan」・「心周期から循環機能を理解する」・「検査値の評価ー精度管理・標準化・共用基準範囲ー」・「尿中抗原検査について」・「クロマトグラフィー検査」・「微生物検査の基本知識」・「平成27年度国公立大学病院医療技術関係職員研修」・「緊急検査・輸血管理（説明）」・「肝炎感染症システム」

【診療放射線技師】

- ①医療機器の安全使用のため、高度管理医療機器研修を実施している。
- ②最新の技術紹介や、業務内容について検討し、全体のレベル向上を図るための業務検討会を実施している。

【臨床工学技師】

- ①日本体外循環技術医学会2年次教育セミナーにて、人工心肺等の体外循環について学ぶ
- ②日本人工臓器学会教育セミナーにて、人工心肺等の体外循環について学ぶ
- ③術中脳脊髄モニタリングセミナーにて、中央手術部におけるモニタリングについて学ぶ
- ④透析技術認定士指定講習会にて、血液浄化について学ぶ
- ⑤実践ME技術講習会にて、人工呼吸器等の生命維持管理装置について実践的な技術及び管理方法について学ぶ
- ⑥造血幹細胞採取拠点病院セミナーにて、末梢血幹細胞採取について学ぶ
- ⑦新生児呼吸療法モニタリングフォーラムにて、新生児の人工呼吸療法について学ぶ
- ⑧西日本補助人工心臓研修セミナーにて、補助人工心臓について実践的な技術及び管理方法について学ぶ

・研修の期間・実施回数

【看護師】（別紙資料1参照）

【薬剤師】 上記参照

【臨床検査技師】

年24回 ※同日開催回あり

4/23・5/21・5/26・6/18・6/25・7/16・8/20・9/17・10/15・11/19・11/25・12/22・1/21・2/18
・2/25・3/17

【診療放射線技師】

- ① 2015/4/28, 2015/11/17 計2回
- ② 2015/4/8, 6/17, 6/30, 7/21, 9/7, 10/6, 10/29, 11/4, 11/17
2016/2/23, 3/31 計11回

【臨床工学技師】

- ① 2日間を1回 ②2日間を1回 ③1日間を1回 ④1日間を1回 ⑤1日間を1回
- ⑥1日間を1回 ⑦3日間を1回 ⑧1日間を1回

・研修の参加人数

【看護師】（別紙資料1参照）

【薬剤師】 上記参照

【臨床検査技師】

*平均 18名/回

【診療放射線技師】

- ① 27名, 25名
② 28名, 23名, 22名, 24名, 26名, 13名, 21名, 22名, 19名, 26名, 28名

【臨床工学技師】

- ① 1人 ②1人 ③1人 ④1人 ⑤1人 ⑥2人 ⑦1人 ⑧1人

- ② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

【平成27年度病院コンプライアンス研修】

○ねらい

職員が高い倫理観を持つとともに、職場全体で仕事に対する誇りと使命感を共有し、自律性の高い職場作りを目指すために、教職員の中心として期待される行動規範等について振り返る機会を設ける。

○内容

- ・コンプライアンスの意義、目的、重要性
- ・コンプライアンスの違反事例
- ・コンプライアンスの誠実な実践
- ・内部通報制度について

・研修の期間・実施回数

全1回 平成27年7月31日（金）

・研修の参加人数

35名（部長級、課長級、係長級含む）

- ③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 城 卓志
管理担当者氏名	事務課長 三浦 伸介

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	処方箋、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、入院診療計画書等は電子カルテ内で一元管理している。訂正16年以前の電子カルテ導入前の記録については、処方箋を除き病歴センターで保管している。診療録等の持ち出しは持ち出す際は、データの暗号化や外部記録媒体の管理の徹底を行うようしている。（「名古屋市立大学病院個人情報保護管理要領」等）
		各科診療日誌	
		処方せん	
		手術記録	
		看護記録	
		検査所見記録	
		エックス線写真	
		紹介状	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	事務課
		高度の医療の提供の実績	事務課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	事務課
		高度の医療の研修の実績	事務課
		閲覧実績	事務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課
		掲げる事項	規則第一條の十一第一項に
医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室		
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室		
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御室
	第二条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御室
	第三項	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御室
	第四項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御室
	第五項	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
	第六項	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第七項	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第八項	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第九項	医療機器安全管理責任者の配置状況	物品供給センター、医療安全管理室
	第十項	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	物品供給センター
	第十一项	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	物品供給センター
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	物品供給センター、医療安全管理室

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理室、医事課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	事務課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室
		監査委員会の設置状況	医療安全管理室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理事務課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室 医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室 監査評価室
		職員研修の実施状況	事務課 医療安全管理室 感染制御室 中央臨床検査部 臨床研究開発支援センター 薬剤部 総務課 看護部 中央臨床検査部 中央放射線部
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室 薬剤部 物品供給センター		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	事務課長 三浦 伸介	
閲覧担当者氏名	事務係長 釜本 英樹	
閲覧の求めに応じる場所	事務課事務係	
閲覧の手続の概要		
記録の閲覧に関する責任者、担当者、及び閲覧の求めに応じる場所を定め、閲覧の求めに応じる場所の入口に掲示している。閲覧の求めがあった際は、閲覧責任者の許可のもと、閲覧担当者にて諸記録の公開を行う。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件	
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：(別添資料 2 参照)<ol style="list-style-type: none">1. 医療機関における安全管理に関する基本的考え方2. 安全管理委員会・その他の組織に関する基本的事項3. 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針4. 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針7. 患者からの相談への対応に関する基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 設置の有無 (有・無)・ 開催状況：年 12回・ 活動の主な内容：(別添資料 3 参照) <p>次の事項の審議を行う。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 安全管理体制の確保に関する事(2) 安全管理のための教育・研修に関する事。(3) 医療事故防止のための周知、啓発及び広報に関する事。(4) 医療事故等の事例検討及び事故防止策に関する事。(5) 医療事故発生時における検証と再発防止対策に関する事。(6) 医療事故等の公表に関する事(7) その他医療事故の防止に関する事。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年21回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：(別添資料 4 を参照)<ol style="list-style-type: none">①新規採用者を対象「新規採用者研修」「中途採用者研修」年2回「医薬品管理研修会」②全職員対象外部講師による講演「医療事故防止講演会」年 2 回③ある程度解決された重大事故について全職員へ周知徹底を図る「危機管理研修会」年 2 回④安全な医療技術・チームワークに関する研修会「PICC研修会」「チーム STEPPS 研修会」⑤看護部における医療安全の教育 <p>上記研修を全職員が受講できるよう従前から e ラーニングを積極的に活用している。</p>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ 全死亡患者報告制度を平成27年11月より運用している。
 - ・ 名古屋市立大学病院インフォームド運用実施規程の作成。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：（別紙 資料 5 名古屋市立大学病院院内感染対策のための指針）・ 院内感染対策に関する基本的考え方として、患者とその家族、職員、委託職員、学生等院内すべての人々を院内感染から守るための効果的予防及び管理を実践する。手指衛生をはじめとする標準予防策、あるいは必要に応じて感染経路別予防策を追加しての実践や、抗菌薬の適正使用を推進できるよう、医療従事者全員に指導・教育を徹底する・ その他、感染症の発生状況の報告に関する基本方針、院内感染発生時の対応に関する基本方針について、報告・指示の体制等を明示している。	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 13 回
<ul style="list-style-type: none">・ 活動の主な内容：（別紙 資料 6 平成27年度感染対策委員会開催状況） <p>委員会は、院内における感染症の感染予防対策に関する次の事項について審議し、方針を決定する。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 感染防止対策マニュアルの策定及び変更(2) 全職員を対象とした感染防止教育と啓発(3) 各職種、各部門の予防対策に関し、必要と思われる事項(4) 職業感染予防の策定(5) 院内感染発生時の改善策について病院職員への周知(6) その他院内感染に関する重要事項	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 20 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容： <ol style="list-style-type: none">(1) 院内感染対策講演会の開催 毎年2回、全職員を対象に院内感染対策の意識向上を図るため講演会を開催する。<ol style="list-style-type: none">①平成27年6月25日 「当院における感染対策上の課題」 講師：野尻 俊輔 医師（名古屋市立大学病院 肝・膵臓内科学 感染制御室） 近藤 周平 臨床検査技師（名古屋市立大学病院 中央臨床検査部 感染制御室） 田上由紀子 看護師（名古屋市立大学病院 感染制御室）②平成27年12月3日 「周術期感染対策の話題」 講師：大毛 宏喜（広島大学 感染症科 教授）(2) 毎年4月に、新規採用職員に対して院内感染対策に関する研修会を実施する。 平成27年4月2日 新規採用職員研修 院内感染予防対策講義、手洗い・個人防護具着脱演習(3) 毎年2回、中途採用者に対して院内感染対策に関する研修を行う。 平成27年7月24日 安全管理・感染管理研修「感染予防対策」 平成28年2月3日 安全管理・感染管理研修「感染予防対策」	

(4) その他の研修

看護部感染対策リンクナース会におけるリンクナース教育

平成27年6月9日 講義 「標準予防策・経路別予防策」

平成27年9月8日 講義 「滅菌・消毒・洗浄，耐性菌感染対策」

平成27年12月8日 講義 「インフルエンザ感染対策、感染性腸炎感染対策」

委託職員研修会 滅菌・洗浄部門担当研修会

平成27年6月18，19，22日 講義「滅菌委託業者に必要な感染対策の知識～針刺し・切創・粘膜炎曝露、部屋の清浄度」

委託職員研修会 清掃担当職員対象

平成27年7月7，8，22日 講義 「環境清掃・清掃時の安全確保・手洗いの基礎」

平成27年 NCU Infection Seminar 医師・メディカルスタッフ対象

平成27年5月13日 「咳からうつる感染症の話題」

講師：川崎医科大学総合内科学 宮下 修行 先生

平成27年7月8日 「いま知りたい感染症検査の最新トピックス」

講師：東京医科大学微生物学分野 大楠 清文 先生

平成27年9月9日 「話題のウイルス感染症—MERS，デング熱，エボラウイルス熱」

講師：名古屋市立大学感染制御室 中村 敦 先生

平成27年11月11日 「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）感染症と院内感染対策」

講師：名古屋大学大学院医学研究科 臨床感染制御学
八木 哲也 先生

平成28年1月13日 「ホントに役立つインフルエンザ対策のABC」

講師：藤田保健衛生大学病院 医療の質・安全対策本部
木下 輝美 先生

平成28年3月9日 「ウイルス性肝炎の最新の話」

講師：名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器・代謝内科学
野尻 俊輔 先生

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

病院における発生状況の報告等の整備

感染管理マニュアルに感染症発生（診断）時の対応として、報告すべき感染症、医師の報告、関連部門の連絡、結核発生時の対応、アウトブレイク時の対応、転院先への情報提供について明示している。

院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策

- ・ 医療関連感染のサーベイランス
- ・ 環境ラウンド
- ・ 感染対策コンサルテーション
- ・ 感染管理教育・研修
- ・ 抗菌薬・微生物ラウンド
- ・ 感染におけるリスクの高い部署との定期カンファレンス（ICU・PICU・CCU、NICU・GCU等）

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>新人看護師向け薬剤研修会 (2回)</p> <p>①平成27年4月7日 (金) 8時45分～ 9時55分 (病院第1会議室)</p> <p>②平成27年4月7日 (金) 13時15分～14時25分 (病院第1会議室)</p> <p>内容：管理が必要な医薬品・与薬時の注意点・薬剤師による情報提供など (調剤担当薬剤師)</p> <p>医薬品安全管理講習会 (1回)</p> <p>平成27年9月15日 (火) 18時00分～19時00分 (病院大ホール)</p> <p>内容：麻薬の取扱いについて (麻薬業務担当薬剤師)</p> <p>レスキュー自己管理のススメ (緩和ケア担当薬剤師)</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 薬剤部の業務 薬剤部の業務については『薬剤部業務マニュアル (新病院総合マニュアル 第8章 薬剤部門)』に従う。2. 医薬品の採用 医薬品の採用については『薬事委員会規約』及び『名古屋市立大学病院薬事委員会運営申し合わせ事項』に従う。3. 医薬品の管理 薬剤部における医薬品の管理については『薬品管理業務マニュアル』、『調剤マニュアル』、『調剤マニュアル (簡易版)』、『調剤薬補充・管理マニュアル』に従う。4. また、病棟・外来においては薬品管理者 (責任医師、看護師、薬剤師) を配置し、『各部門の薬品管理担当者による医薬品の管理および確認について』に従う。5. 毒薬、向精神薬 (第2種)、麻薬についてはそれぞれ『毒薬管理手順書』、『第2種向精神薬・毒薬 (筋弛緩薬) 管理マニュアル』、『麻薬管理マニュアル』に従う。6. 病棟・各部門への医薬品の供給 病棟・部門への医薬品の供給については『薬品管理業務マニュアル』、『各部門の薬品管理担当者による医薬品の管理および確認について』に従う。7. 外来患者への医薬品の供給 外来患者への医薬品の供給については『調剤マニュアル』に従う。8. 入院患者への医薬品の供給 医薬品の患者への投与については『与薬に関するマニュアル (看護手順 8. 与薬の看護技術)』に従う。9. 入院患者への医薬品の情報提供 入院患者への医薬品の情報提供については『薬剤管理指導マニュアル』、『疾患別薬剤管理指導マニュアル (案)』に従って薬剤師は患者へ服用薬の情報を提	

供する。

10. 医薬品情報の収集・管理・提供 医薬品情報の収集・管理・提供については『名古屋市立大学病院における医薬品情報管理マニュアル』に従う。
11. 他の医療機関・調剤薬局との連携 他の医療機関・調剤薬局との連携については『院外薬局から送られた後発医薬品変更のFAXの管理（新病院総合マニュアル 第19章 医療・福祉地域連携室）』、『薬剤管理指導マニュアル』および『薬薬連携のための地域の薬剤師会との検討会について』に従う。
12. 抗がん剤の管理・調製 抗がん剤の管理・調製については、『抗がん剤調製マニュアル（入院用・外来用）』および『抗がん剤レジメンチェックマニュアル』に従う。
13. 感染対策 感染対策については、『抗菌薬適正使用マニュアル』、『術後抗生剤投与マニュアル』および『抗MRSA薬使用の手引き』に従う。
14. 中心静脈栄養（TPN）調製 中心静脈栄養（TPN）調製については、『中心静脈栄養（TPN）無菌混合調製マニュアル』に従う。
15. 入院時の持参薬 入院時の持参薬については、『入院支援センターマニュアル（新病院総合マニュアル 第25章）』および『持参薬管理マニュアル』に従う。
16. 危険薬 危険薬の定義については、『本院における危険薬一覧』に従う。
17. 処方せんの記載方法 処方せんの記載方法については、システム操作マニュアル 第6章 オーダリングツールの『6.1処方オーダ』および『6.7 注射オーダ』に従う。

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有 ・ 無)

1. 病棟での3者ミーティングでの情報収集（医師・看護師 ⇒ 病棟担当薬剤師）
2. 調剤時等の情報収集（薬剤師 ⇒ 病棟担当薬剤師）
3. 診療報酬審査委員会からの査定情報（医事課 ⇒ 病棟担当薬剤師）

- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

1. 医薬品適正使用のための注意喚起
薬事委員会において、本院で発生した有害事象についての報告および再発防止対策の周知を適宜実施している。
2. 院内安全性情報の活用
本院に重要と考えられる安全性情報について、安全性情報に基づく必要な対応（検査の実施・患者への説明等）について薬剤師が該当患者のカルテ上に記載して、医師に対応を求める取り組みを実施している。平成27年度には、適正使用情報1件（オプジーボ点滴静注による劇症1型糖尿病について：2016年1月）について実施した。
3. 医療安全全国共同行動への取り組み
医療安全全国共同行動の「医薬品の誤投与防止」への取り組みに沿った改善活動として、医師・薬剤師・看護師等の多職種による検討を行い、以下の点について実施した。
 - 内服抗がん剤処方に関するリスクの検討（アンケート調査実施）
 - 内服抗がん剤を対象とした薬剤師外来の実施（平成27年9月から運用開始）
4. 抗がん剤の管理・調製
薬剤部にてすべての抗がん剤使用レジメンの登録管理を行っている。かつ外来および入院のすべての抗がん剤使用患者の抗がん剤の調製も行っている（休日含む）。抗がん剤使用患者に対する薬学的管理（入院患者はもちろん、外来患者への説明を含む）を実践している。また陰圧ア

イソレーター（ケモシールド®）を使用することにより、ファシールを使用することなく揮発性の抗がん剤（エンドキサン注®等）を安全に調製できる作業環境を提供している。

5. 内服抗がん剤使用患者に対する薬剤師外来

平成27年9月より、内服抗がん剤使用開始患者を対象とした薬剤師外来を開始した。対象は「外来にて開始するTS-1処方（院内、院外処方ともに）」とし、医師からの依頼を受け薬剤師が面談を行う形式とした。

6. 入院支援センターの設置

平成24年10月1日に、これから入院される方への案内と入院当日の受付、入院時の持参薬確認を集約して一か所で行う「入院支援センター」を設置し、持参薬管理を目的とした薬剤師による面談を全入院予定患者で実施している。薬剤師による面談は入院時だけでなく、入院決定日にお手帳などの情報をもとに術前中止薬を把握することを目的とする「入院前の服用薬確認」も実施されており、これらの運用により持参薬の服用状況および術前休止薬の確認が実施されるため、院内全体での持参薬に関する情報の共有・安全管理が可能となった。

▶ 平成27年度の服用薬確認件数：入院時8681件（約36件/日）、入院前5078件（約21件/日）

7. リスクマネジメント関連情報の発信

院内配布のRMニュース「おくすりのはなし」の項に薬物取扱・使用における安全管理の留意点を定期的（3か月に1回の割合）に継続連載して、院内医療関係者への注意喚起を実施している。

8. 医療安全教育（医薬品に関する安全教育）の実施

医療安全管理室が主催する医療安全教育（電子カルテを用いたe-ラーニング）に参加し、全職種を対象に医薬品に関する安全教育を実施している。平成27年度は「ジェネリック医薬品について（その2）」を実施した。

9. 薬薬連携の取り組み

薬薬連携のための地域の薬剤師会の薬剤師との検討会を定期的実施して、疑義照会事例・新規採用薬情報・地域連携クリニック（がん地域連携パス）などについて意見交換を行っている（平成27年度は計4回実施）。また、呼吸器内科と協働して、地域の保険薬局の薬剤師を対象とした吸入指導講習会（吸入指導ネットワーク）を年2回実施している。

※第3回講習会（H27.9月：82名参加、第4回講習会（H28.3：57名参加）、合計139名

10. 部門ごとの医薬品管理者の選定

部門ごとに医師・看護師・薬剤師の3者の医薬品管理者を選定し、医薬品適正管理（定数医薬品の見直しを含む）を実施している。さらに管理担当薬剤師からは、毎月発行の「医薬品情報誌」を用いた医師、看護師への情報提供も行っている。平成23年度からは部門における医薬品管理の問題点の収集と情報共有を目的として、医薬品管理者（医師・看護師・薬剤師）による3者ミーティングも実施している。3者ミーティングの記録内容については定期的に医薬品安全管理責任者が内容を把握している。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年185回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：(別紙資料7を参照) <p>I. 新しい医療機器の導入時の在職職員に対する取扱研修。</p> <p>II. 人工心肺装置、人工呼吸器、保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置等の特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する在職職員に対する取扱研修。</p> <p>III. 新規採用職員に対するシリンジポンプ、輸液ポンプ等の医療機器の取扱研修及び在職職員に対する随時研修。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)・ 保守点検の主な内容： <p>I. 人工呼吸器、除細動器、保育器等のMEセンター管理機器については、使用後MEセンターに返却の都度もしくは一定の点検期間毎に、保守点検を実施している。</p> <p>II. 診療用高エネルギー放射線発生装置などその他の医療機器については、業者による定期点検を実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>I. (i) 医療機器に係る院内のインシデント・アクシデント情報、(ii) メーカーから直接寄せられるリコール情報、(iii) 医薬品医療機器総合機構から発信される情報等については、医療安全管理室へ一元的に集約され、同室及び臨床工学室が中心となり各部署への情報発信及び対策を実施している。</p> <p>II. 機器の安全使用の観点から、中央管理する機器については、標準化を図っている。</p> <p>III. 医療機器の使用に係る医療事故の発生を防ぐことを目的として作成した医療機器使用マニュアルの適宜見直しを行った。</p>	

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	○有・無
<p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>安全管理担当の副病院長を医療安全管理責任者とし、医療安全管理室室長を安全管理指導者とする。</p> <p>医療安全管理委員会の委員長は医療安全管理責任者とする。医療安全管理責任者のもと、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者を配置する。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	○有 (5名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医薬品安全管理責任者から指名された薬剤師（以下、医薬品情報係長）が、緊急安全性情報・安全性速報などの安全性情報の内容を確認し、必要に応じて院内の医薬品の使用状況を把握し、その結果を医薬品安全管理責任者に報告を行っている（最低月 1 回）。医薬品安全管理責任者はその報告をもとに、院内への情報周知やオーダ時の制御等の対策を検討し実施する。2. 医薬品の発注・購入を担当している薬務係長は医薬品の購入状況を精査し、通常と異なる使用状況等の有無について確認する（最低月 1 回）。疑問点がある場合は医薬品情報係長に連絡する。医薬品情報係長は該当部署の病棟担当薬剤師と協力して、使用状況の詳細な把握を行う。3. 調剤を担当する薬剤師が、調剤時に通常とは異なる使用状況等の疑問を持った場合、病棟担当薬剤師および医薬品情報係長に情報を伝える。 <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <ol style="list-style-type: none">1. 病棟担当薬剤師が、病棟で担当患者に対する薬学的管理の際や医師・看護師との 3 者ミーティングの際などにおいて医薬品の使用状況に係る情報収集を行い、適宜医薬品情報係長へ伝達を行う。2. 調剤を担当する薬剤師が、調剤時に適応外使用等の疑問を持った場合、病棟担当薬剤師や医薬品情報係長に情報を伝える。3. 診療報酬審査委員会での査定情報を、医事課担当職員から病棟担当薬剤師や医薬品情報係長が収集する。	

4. これらの情報に関しては、医薬品情報係長が必要に応じて院内の医薬品の使用状況を把握し、その結果を医薬品安全管理責任者に報告を行う。医薬品安全管理責任者はその報告をもとに、院内への情報周知やオーダー時の制御等の対策を検討し実施する。

・担当者の指名の有無 有・無

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

有・無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 有・無

・規程の主な内容：

インフォームドコンセントの原則、インフォームドコンセントの対象、インフォームドコンセントの手順、病院職員同席について、標準的説明内容及び書式、緊急に行った医療行為の場合の説明、記録など手順、保管、病院における責任者 等

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有・無

・活動の主な内容：

実務内容は情報処理室の職員、診療情報管理士からの相談対応、システム会社との定期的な打合せ、診療記録の監査業務や各種業務提案を病院情報システム会議、及び診療情報管理委員会で行っている。様々な活動を通じ、適切な病院情報システムと診療情報管理業務の運用管理の推進に努めている。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有・無

所属職員：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（4）名

うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（4）名

うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

・活動の主な内容：

・安全確保のための研修会や講演会の企画・運営

・医療安全管理委員会やセーフティーマネージャー会議の企画・運営（資料・議事録の作成及び保存）

・医療事故防止のための未然防止策の検討や、事故後再発防止策の検討・策定・実施・評価

- ・リスクマネジメントマニュアルの改訂
- ・医療安全巡視の計画・実施・評価
- ・職員への安全意識の向上のための教育システム（eラーニング）の掲載・成績把握・職場への周知
- ・説明・同意文書の見直しの企画・運営等
- ・重大医療事故後の原因分析や再発防止策のための各部署との検討会、各関連科との連携
- ・患者相談室との連携
- ・患者死亡報告書の確認

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・規程の主な内容：
 - ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
 - ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・規程の主な内容：
 - ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
 - ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 監査委員会の設置状況

有・無

- ・監査委員会の開催状況：年 回
- ・活動の主な内容：
 - ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）
 - ・委員名簿の公表の有無（有・無）

・委員の選定理由の公表の有無（有・無）

・公表の方法：

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 446 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 3 件
- ・ 医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - 次の事項の審議を行う。
 - (1) 安全管理体制の確保に関すること
 - (2) 安全管理のための教育・研修に関すること。
 - (3) 医療事故防止のための周知、啓発及び広報に関すること。
 - (4) 医療事故等の事例検討及び事故防止策に関すること。
 - (5) 医療事故発生時における検証と再発防止対策に関すること。
 - (6) 医療事故等の公表に関すること
 - (7) その他医療事故の防止に関すること。

⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院への立入り（有）（病院名：横浜市立大学病院）・無）
- ・ 他の特定機能病院からの立入り受入れ（有）（病院名：横浜市立大学病院）・無）
- ・ 技術的助言の実施状況
 - インシデント・アクシデントの分析方法と再発防止対策について助言を受けた。
 - 診療情報管理の徹底による診療状況の確認について助言を受けた。

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・ 体制の確保状況
 - 病院内の医療安全管理室に、医療安全に係る内部通報・相談窓口を設置している。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）
- ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（有・無）
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況(別添資料4参照)

- ①新規採用者を対象「新規採用者研修」「中途採用者研修」年2回「医薬品管理研修会」
 - ②全職員対象外部講師による講演「医療事故防止講演会」年2回
 - ③ある程度解決された重大事故について全職員へ周知徹底を図る「危機管理研修会」年2回
 - ④安全な医療技術・チームワークに関する研修会「PICC研修会」「チーム STEPPS 研修会」
- 上記研修を全職員が受講できるよう従前からeラーニングを積極的に活用している。

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理職員には、概ね年1回、医療に係る安全管理のための外部研修を受講させることとしている。
平成28年度は、5月に病院長が受講済。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	①・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 評価を行った機関名：公益財団法人 日本医療機能評価機構 評価を受けた時期：2013年8月2日（初回認定：2008年2月18日） 備考：認定第JC1440-2号 一般病院2 機能種別版評価項目3rdG：Ver. 1.0	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	①・無
・情報発信の方法、内容等の概要 【病院HP等】 ○病院HPに当院のご案内、最新のお知らせ、患者・一般向け、医療関係者向けの情報を掲載している。 ○愛知県が管理する「あいち医療情報ネット」に診療時間や診療科目等の情報を掲載している。 【院外広報紙】 ○「さくらほっとNEWS」を刊行（年4回程度）し、当院の最新情報やお知らせを、患者や地域の住民向けに発信している。病院HPへの掲載、院内窓口での配布、院外（近隣病院、市内区役所等）及び職員向けに配布している。 ○「名古屋市立大学病院臨床シミュレーションセンターNEWS」を刊行（年4回程度）し、当院におけるシミュレーション教育の内容について発信している。病院HPへの掲載、院内及び院外（近隣病院）向けに配布している。 【公開講座等】 ○「患者情報ライブラリーセミナー」（年6回程度）や、各科による公開講座（不定期）について、疾患に対する理解を深めるため、患者や一般市民向けに開催している。 病院、大学HPに開催情報が掲載される。 ○国際福祉健康産業展「ウェルフェア」の開催に伴う併催行事として講演会・セミナー・ワークショップが開催されており、当院の職員が講師となって講演を行っている。病院HPに開催情報が掲載される。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	①・無
--------------------------	-----

・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要

- 診療にあたる際、必要に応じて複数の診療科による合同のカンファレンスを実施している。
- 全診療科の代表者を含む各種委員会を定期的に開催している。
- 複数の診療科によって組織する「センター」機能を有し、診療科ごとの特性を融合することにより、特色となる診療を実施したり、診療の支援業務や教育・研究業務などを行っている。
- 医療安全、感染、栄養サポート（NST）、褥瘡等に対して複数の診療科、職種を交えてチームを組み、対策を行っている。
- 診療連携拠点病院（肝疾患、地域がん）として都道府県における診療ネットワークの中心的な役割を果たす病院である。また、災害拠点病院として地域における災害医療を担っている。
- 救命救急センターとして24時間高度な医療が提供できるよう、全診療科及び全部門が連携して救急医療のバックアップ体制を整えている。夜間・休日においても、医師、看護師、薬剤師、X線技師、検査技師が待機しており、常時迅速な引継が可能である

年度別研修一覧

対象年度：2015年度

研修名	日程	時間帯	種類	参加人数	必須	目的・目標	会場・場所
新規採用者研修	4/6~6/22		新人	97	I	新規採用者技術研修 差別紙	
安全管理Ⅰ	5/26 5/28	08:45~12:15 13:15~16:45(5/26のみ)	新人	97	I	【目的】 看護職員のリスク感性を高め、安全な医療が提供できる 【目標】 1. 医療安全に関する基本的知識が習得できる 2. 危険予知、指差し呼称、5Sの医療安全行動がとれる	西棟 シミュレーションセンター多目的室
新人BLS研修	7/13, 16	08:45~10:25 10:35~12:15	新人	97		【目的】 医療従事者としてのBLS・心肺蘇生法を学ぶ 【目標】 1. 心肺停止の初期対応からAEDの使用法について理解する 2. 心肺停止の初期対応とAEDを使用することができる	
フォローアップⅠ	7/13, 16	13:15~17:00	新人	97		【目的】 職業人としての自己管理ができる 【目標】 1. 職場での3ヶ月の看護や生活を振り返り、職業人としての心構えを高める 2. 自己の傾向を知り、入職後の看護経験から自己の成長を認め、今後の課題を明らかにする	
フォローアップⅡ	10/29, 30	13:00~17:00	新人	97		【目的】 職業人としての自己管理ができる 【目標】 1. 6ヶ月の自分を客観的に評価できる 2. 自分の思考の傾向に気付くこと	第1会議室
フォローアップⅢ	3/3~4	13:00~17:00	新人	95		【目的】 職業人としての自己管理ができる 【目標】 1. 自己の成長を実感し、2年目に向けたイメージができる	病棟・中央診療棟4階 第1会議室
多重課題	12/10, 11, 12, 14, 15, 18, 19, 21, 23	08:45~11:55 13:15~16:35 (12/10, 18以外)	新人	95		【目的】 看護現場における多重課題を、安全に優先順位を考え実施できる 【目標】 多重課題のシミュレーションを通して、自己の行動パターンと思考過程を知ることができる	西棟2階看護学部 実習室B、模擬病室他
研修名	日程	時間帯	種類	参加人数	必須	目的・目標	会場・場所
マネジメントⅢ	5/17	08:30~17:00	現任	57	Ⅲ	【目的】 管理的な視点で、自部署の問題解決ができる 問題解決を通して、自己の役割を果たすことができる 【目標】 1. 問題解決を通して自己の役割を果たすことができる 2. 自部署の問題解決ができる	
静脈注射指導者研修	5/18~20	17:15~18:30	現任	36	Ⅱ	【目的】 安全な静脈注射を実施するための指導ができる 【目標】 1. 静脈注射を安全に実施するための法的責任、判断基準を理解し指導ができる	中央診療棟3階 看護事務室書庫
安全管理Ⅱ	5/22	08:45~12:00 13:15~16:30	現任	93	Ⅱ	【目的】 看護職員のリスク感性を高め、安全な医療が提供できる 【目標】 医療安全のための事故対策について理解でき、安全な行動がとれる 1) 安全な看護について考えることができる 2) 事例を通して危険を予知した安全行動をとることができる	病棟・中央診療棟4階第1会議室
マネジメントⅠ	6/18	13:15~16:30	現任	50	Ⅲ	【目的】 所属の目標を達成するために、自己の役割を果たすことができる 【目標】 1. 組織において自己が期待されている役割を知る 2. 期待されている役割を果たすための能力を高めることができる	4階第1会議室
症例検討(説明会)	6/29~30	16:00~17:00	現任	85	Ⅱ	【目的】 看護に必要な能力開発と自己の看護観について考えることができる。 【目標】 1. 症例に対して系統的、科学的に看護が実践できる。(看護過程の展開) 2. 自分たちの行った看護を振り返ることができる。 3. 研修全体(看護実践、発表会、グループ討議)を通して、意見交換し、他者の意見を取り入れ考えることができる。	3階大ホール
リーダー(宿泊研修)	7/8~10		現任	27	Ⅱ	【目的】 看護のやりがいを引き出すリーダーシップを発揮する 【目標】 1. 看護の魅力を確認できる 2. 看護の魅力を引き出すための自己の役割について考えることができる	野間荘
指導者Ⅰ	8/14	08:45~12:15 13:30~17:00	現任	45	Ⅱ	【目的】 人材育成能力を養うことができる 2. 人を育てる事で、喜びを感じることができる 【目標】 1. 対象の背景を知り、臨床指導者の役割を理解できる 2. 指導する時の関わりについて考え、実践することができる	病棟・中央診療棟4階 第1会議室
静脈注射指導研修	8/19~21	17:30~19:00	現任	35	Ⅱ	【目的】 安全な静脈注射を実施するための指導ができる 【目標】 1. 静脈注射を安全に実施するための法的責任、判断基準を理解し指導ができる	書庫
リーダーⅡ	8/28	08:45~12:15 13:15~16:45	現任	65	Ⅱ	【目的】 チーム医療の中で看護職としてリーダーシップを発揮できる 【目標】 1. リーダーシップを理解し、問題解決ができる 2. 医療チームの一員の中での看護職の役割を理解し、実践することができる	
急変対応指導者研修	9/6, 15 10/9, 10, 11, 13	8:30~17:00	現任	32	Ⅲ	【目的】 防ぎ得た心停止・防ぎ得た後遺障害を回避するため、傷病者の評価と対応のスキルを習得し、急変対応能力を身につけ、部署内で指導できる 【目標】 1. 緊急度の判断と報告ができる 2. フィジカルアセスメントを用いて、病態がアセスメントできる 3. 緊急時の初動体制をチームで遂行することができる 4. 部署内で急変対応の指導ができる	西棟1階臨床シミュレーションセンター 多目的室 受付・多目的室
安全管理Ⅱ(発表会)	9/11	08:30~12:15 13:00~16:45	現任	93	Ⅱ	【目的】 看護職員のリスク感性を高め、安全な医療が提供できる 【目標】 医療安全のための事故対策について理解でき、安全な行動がとれる 1) 安全な看護について考えることができる 2) 事例を通して危険を予知した安全行動をとることができる	
指導者研修Ⅲ	10/23	12:50~17:00	現任	31	Ⅲ	【目的】 人材育成能力を養うことができる 2. 人を育てることにより、喜びを感じることができる 【目標】 1. 成人教育・継続教育基準・院内の教育体制を理解する 2. 対象に合わせた指導方法を考え、実践することができる	病棟・中央診療棟4階 第1会議室
指導者研修Ⅱ	10/23	12:50~17:00	現任	44		【目的】 人材育成能力を養うことができる 2. 人を育てることで喜びを感じることができる 【目標】 1. 成人教育・継続教育基準・院内の教育体制を理解する 2. 対象に合わせた指導方法を考え、実践することができる	病棟中央診療棟4階 第1会議室
リーダー(ピギナー)	11/6	08:30~12:15 13:00~16:45	現任	92	Ⅱ	【目的】 リーダーの役割を理解しリーダーシップを理解できる。 【目標】 1. 日々リーダーの役割を理解できる。 2. チームで看護を展開する。	病棟・中央診療棟4階 第1会議室
フィジカルアセスメントⅡ	11/19, 20	13:00~17:00	現任	38	Ⅱ	【目的】 フィジカルアセスメント能力を高め、患者の観察・判断について指導ができる 【目標】 1. 事例患者に必要な問診・視診・触診・聴診の方法と根拠がわかる	西棟1階 臨床シミュレーションセンター 多目的室
事例検討(発表会)	12/3~4	13:00~16:55	現任	85	Ⅱ	【目的】 看護に必要な能力開発と自己の漢語間について考えることができる。 【目標】 1. 症例に対し系統的、科学的に看護が実践できる。 2. 自分たちの行った看護を振り返ることができる。 3. 研修全体を通して、意見を取り入れることができる。	病棟・中央診療棟4階第1会議室
プリセプターエイド	12/17	12:45~17:00	現任	36	Ⅲ	【目的】 新人教育の目的を理解し、プリセプターエイドとしての役割を遂行できる 【目標】 1. 新人看護職員研修体制に対して、制作の動向と背景、教育担当者の役割を理解する。 2. 集合研修と連動した職場内研修を企画・運営・評価できる。	西棟臨床シミュレーションセンター1階 多目的室

プリセプター	1/21	08:30～12:00	現任	76	II	【目的】 1. 新人教育の目的を理解し、プリセプターの役割が実践できる。 2. プリセプターの実践を通して自己の成長を感じることができる 【目標】 1. 新人教育におけるプリセプターの役割を理解できる 2. 自分の特性を知り、プリセプターをするまでの課題を見いだす	西棟1階シミュレーションセンター 多目的室
リーダーⅢフォローアップ	1/29	16:00～17:00	現任	27	III	【目的】 看護のやりがいを引き出すリーダーシップを発揮する 【目標】 1. 看護の魅力を再確認できる 2. 看護の魅力を引き出すための自己の役割について考えることができる 3. ファシリテーションスキルを身につけ、効果・効率的なカンファレンスや会議が運営できる	
ファシリテーション	1/30, 31	9:00～17:00	現任	70	III	【目的】 1. ファシリテーションの効果と概要を理解している 2. ファシリテーションの各種スキルを身につけている 3. カンファレンスや話し合いの現場で活用しようという気持ちになっている 【目標】 1. 部署および組織の目標を達成するために、自己の役割を果たすことができる	西棟1階臨床シミュレーションセンター 多目的室
マネジメントⅡ	2/5	11:00～17:00	現任	25	II	【目的】 1. 組織目標達成のための問題解決の方法を理解する。 2. 自部署の問題の現状分析ができる。	第1会議室
BLS研修	6/18 7/24, 31 8/20, 27 9/16, 25 10/23, 30 11/20, 27 12/7, 17 1/22, 27 2/25, 29	17:30～19:00	現任	266		【目的】 心肺蘇生の実践を学ぶ 【目標】 1. 蘇生のABCについて理解する 2. 質の高いCPRを理解する 3. AEDの取り扱いを理解する	西棟1階臨床シミュレーションセンター 多目的室
BLSインストラクターコース	9/30 12/22 3/22	17:30～19:00	現任	20		【目的】 看護部BLSインストラクターの育成 【目標】 1. 成人教育について理解する 2. 看護部BLSコースの目的を理解する 3. BLSコースの指導ポイントを理解する	西棟1階臨床シミュレーションセンター 多目的室
研修名	日程	時間帯	種類	必須	目的・目標	会場・場所	
新任部長研修	6/1	13:00～17:00	管理者教育	5	【目的】 部長としての役割を理解し、部署マネジメントに活用できる	中央診療棟 3階看護部書庫	
新任主任研修	6/19	13:00～17:00	管理者教育	5	【目的】 主任としての役割を理解し、部署マネジメントに活用できる	中央診療棟3階看護部書庫	
主任研修	7/31	08:30～12:00 13:30～17:00	管理者教育	68	【目的】 働きがいのある職場を作るために主任としての役割を果たすことができる 【目標】 主任として、状況に応じた課題達成のために活動できる	病棟・中央診療棟 4階 第1会議室	
主任研修(発表会)	2/1	11:00～12:00 16:00～17:00	管理者教育	68	【目的】 働きがいのある職場を作るために主任としての役割を果たすことができる 【目標】 主任として、状況を分析し課題達成のために活動することができる	病棟・中央診療棟4階 第1会議室	
研修名	日程	時間帯	種類	必須	目的・目標	会場・場所	
インターネット配信研修 (日本看護協会)	7/6, 10, 13	17:30～19:00	その他	92	新人看護職員のための夜勤・交替制勤務を充実させる 第1章～5章	中央診療棟3階大ホール	
インターネット配信研修 (日本看護協会)	7/14, 21, 27	17:30～19:00	その他	89	新人看護職員のための夜勤・交替制勤務を充実させる 第6章～	中央診療棟3階大ホール	
インターネット配信研修 (日本看護協会)	1/18, 2/3,	17:30～19:00	その他	30	夜勤交代制勤務ガイドライン導入のための実践方法を知る ～夜勤負担を軽減した勤務づくりを目指して～ 【理論編】	3階大ホール	
インターネット配信研修 (日本看護協会)	2/9, 12	17:30～19:00	その他	62	夜勤・交替制勤務ガイドライン導入のための実践方法を知る ～夜勤負担を軽減した勤務づくりを目指して～ 【運用編】	3階大ホール	

1 医療に係る安全管理のための指針

名古屋市立大学病院における医療に係る安全管理を推進するため、本指針を定める。

1. 医療機関における安全管理に関する基本的考え方

市立大学病院は、患者さんの貴重な生命を預かる病院として、安全で安心できる質の高い医療を提供する使命がある。特定機能病院として高度な医療の提供や教育を実施する中で、責任体制や役割分担を明確にし、病院全体で安全管理の徹底を図り、職員一人ひとりが患者さんを中心とした安全管理を意識し、医療事故防止に取り組んでいく。当院に勤務する全ての職員に対して、より安全な医療の提供と患者満足度の向上を第一にした医療安全活動を再認識させ、安全に対する意識を高めマニュアルを遵守した改善・改革を推進していくことを安全管理の基本方針とする。

2. 安全管理委員会・その他の組織に関する基本的事項

本院の安全管理体制の確保及び推進のため、病院長を統括安全管理者、副病院長（安全管理担当）を安全管理指導者とする。また、医療の安全性の確保と適切な医療を提供するとともに、病院機能の向上と運営改善に資するために、医療安全管理室を設置する。医療安全管理室は、医療安全を組織横断的に推進し、適切かつ効率的に事故防止を図り、安全管理を行う。

当院全体の医療安全管理について検討・審議を行う医療安全管理委員会、病院長から任命された各部門のセーフティマネージャーを中心に活動する周知徹底機関としてセーフティマネージャー会議を設置し病院全体で継続的に取り組んでいくものとする。それらの組織、運用についてはそれぞれ別に規程を設ける。

3. 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針

- 1) 医療安全管理委員会は、予め作成した研修計画に従い 1 年に 2 回程度の全職員を対象とした医療安全管理のための研修を定期的を実施する。
- 2) 研修は、医療安全管理の基本的な考え方、事故防止の具体的な手法等を全職員に周知徹底することを通じて、職員個々の医療安全意識の向上を図るとともに、当院全体の医療安全を向上させることを目的とする。
- 3) 職員は、研修が実施される際には、極力、受講するよう努めなくてはならない。
- 4) 病院長は、当院で重大医療事故が発生した場合や必要があると認めた場合は、臨時で、報告会を開催し全職員に対して情報を提供する。
- 5) 医療安全管理のための研修の実施方法としては、外部講師を招聘しての講習会、院内での事例または医療安全取り組み報告会、医薬品安全管理・医療機器安全管理に関する研修会等実施する。

4. 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針

- 1) 医療安全管理の推進に必要な事項を定めた、「リスクマネジメントマニュアル」を作成し、医療事故防止対策に活用する。
- 2) インシデント・アクシデントの報告は、リスクマネジメントマニュアルに基づき医療事故等へ結びつく可能性のある事例を院内から広く集約し、その要因を分析することにより、医療事故等の防止を図るとともに、リスクマネジメントに対する病院全体の意識の高揚を図るものとする。
- 3) 報告された事例は、医療安全管理室でとりまとめ、医療安全管理委員会で事例の把握ならびに原因分析に基づいた防止対策・改善策について審議し、セーフティーマネージャー会議やRMニュースを通じて院内に再発防止策を周知徹底する。
- 4) インシデント・アクシデントレポートは、報告により当事者が不利益を受けないことを担保するために、原則非公開とする。

5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針

- 1) 医療事故等が発生した場合は、当院の総力を結集して、患者の救命と被害の拡大防止に全力を尽くす。また、当院内のみでの対応が不可能と判断された場合には、遅滞なく他の医療機関の支援を求めるものとする。
- 2) 患者・家族への説明は、事故発生後、救命措置の遂行に支障を来たさない限り可及的速やかに、事故の状況、現在実施している回復措置、その見通し等について各担当医・部門長等が誠意をもって正確に説明する。
- 3) 重大医療事故が発生した場合には、発生した事故情報の把握、原因究明、対応策及び再発防止策の検討を速やかに図るため、「重大医療事故報告制度の流れ」に基づき対応する。
- 4) 対応した職員は、その事実および説明内容を診療録に記録する。

6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針

医療安全管理のための理念をホームページに掲げるとともに、「名古屋市立大学病院医療事故等公表基準」に基づき医療事故等を公表することにより、より透明な、より安全な医療システムを確立し、尊い生命を預かる病院として信頼できる質の高い医療を提供する。

7. 患者からの相談への対応に関する基本方針

- 1) 患者及びその家族から医療に関する相談に対して適切な対応及び情報提供等の支援を行うために、患者相談室を設置する。誠実に対応するとともに相談により患者等が不利益を被らないこと及び患者等の情報の保護のために適切な配慮を講じるものとする。
- 2) 医療安全に関わる苦情や相談については、医療安全管理委員会やセーフティー

マネージャー会議等に詳細に報告し当院の医療安全対策の見直し等に活用する。

8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針

医療安全をより推進させるために、「リスクマネジメントマニュアル」は定期的（年1回）及び随時改訂し、その内容を病院全職員へ周知・徹底する。また、医療安全確保体制の見直しを行うとともに、他機関からの情報収集に努め医療安全の改善・推進を図る。

9. 本指針の周知ならびに見直し及び改訂

- 1) 本指針の内容は、医療安全管理委員会を通じて、全職員に周知徹底する。
- 2) 医療安全管理委員会は、少なくとも毎年1回以上、本指針の見直しを議事として取り上げ検討するものとする。

附 則

本指針は、平成19年12月1日から施行する。

附 則

本指針は、平成23年4月14日から施行する。

附 則

本指針は、平成26年5月20日から施行する。

附 則

本指針は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

本指針は、平成28年4月1日から施行する。

名古屋市立大学病院医療安全管理委員会設置規程

1 設 置

名古屋市立大学病院に、医療に係る安全管理を目的として、名古屋市立大学病院医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 組 織

- (1) 委員会は、委員長、副委員長及び委員をもって構成する。
- (2) 委員長は、医療安全管理責任者である副病院長（安全管理担当）とし、副委員長は、医療安全管理室長とする。
- (3) 委員は、次の各号に掲げる者とする。
 - 一 医薬品安全管理責任者
 - 二 医療機器安全管理責任者
 - 三 病院部長会で選出された部長 2 名（内科系 1 名、外科系 1 名）
 - 四 病院長が指定する診療科（内科、外科においては医学部の分野単位とする。）及び中央部門から選出された教員 6 名（内科系 2 名、外科系 2 名、中央部門 1 名、感染制御室 1 名）
 - 五 看護部長
 - 六 医学部管理部長
 - 七 医療安全管理室副室長
 - 八 外部有識者 2 名
 - 九 病院長

3 審議事項

委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 医療事故の調査、分析及び再発防止策に関すること
- (2) 医療に係る安全管理のための職員研修及び広報に関すること
- (3) 医療事故等の公表に関すること
- (4) その他医療に係る安全管理に関すること

4 会 議

- (1) 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。
- (2) 委員長に事故がある時は、病院長の指定する者がその職務を代行する。
- (3) 委員会は、構成員の 2 分の 1 以上の出席がなければ開くことができない。
- (4) 委員長が必要と認めるときは、構成員以外の者に出席を求め意見を聴くことができる。

(5) 委員会は、月一回程度開催するとともに、重大な問題が発生した場合は適宜開催する。

5 庶務

委員会の庶務は、医療安全管理室において行う。

6 その他

この規程に定めることのほか、医療に係る安全管理に関して必要な事項は、委員長が委員会に諮ったうえで定める。

附 則

- 1 この規程は、平成28年9月30日から施行する。
- 2 医療安全管理委員会設置要綱は廃止する。

安全管理の体制確保のための職員研修の実績

(平成27年度)

参加人数※はeラーニングも含む受講者数

開催日	研修区分	対象職員	参加者数	時間	内容
H27. 4. 1	新規採用者研修会	全職員	399名	6時05分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院長訓示・講話 ・ 医療倫理について ・ 個人情報保護について ・ 診療録管理について ・ 利益相反マネジメントについて ・ 保険診療について ・ 医薬品の安全管理について ・ 病院の災害対応について
H27. 4. 2				6時20分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 接遇について ・ 医療の安全対策について ・ 院内感染対策について
H27. 5. 18	静脈注射 I 部署内研修 指導者研修	ラダーレベルⅢチャレンジ中の者 で部署内で指導ができる者	36名	1時15分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 静脈内注射実施における看護師の法的責任(講義) ・ 静脈注射に必要な知識と技術他(講義) ・ 側管ワンショット静脈注射(演習) ・ 翼状針一時点滴(演習) ・ 知識・スキルのテスト
H27. 5. 19					
H27. 5. 20					
H27. 5. 22	安全管理研修Ⅱ	看護師 2年目	94名	3時15分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護師としての倫理と責務(講義) ・ 看護の安全性とKYT(講義) ・ インシデントレポートKYT(演習) ・ 職場内研修(5月～9月) ・ 職場内研修発表会
H27. 9. 11			89名	3時45分	
H27. 5. 26	安全管理研修Ⅰ	新規 看護職員	103名	3時30分	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなで学ぼうKYT(講義) ・ 4ラウンドKYT(演習)
H27. 5. 28					
H27. 6. 18	B L S 研修	看護職員	12名	1時30分	<ul style="list-style-type: none"> ・ B L S の実際(演習)
H27. 7. 24			6名		
H27. 7. 31			21名		
H27. 8. 20			18名		
H27. 8. 27			23名		
H27. 9. 16			24名		
H27. 9. 25			17名		
H27. 10. 23			24名		
H27. 10. 30			12名		
H27. 11. 20			19名		
H27. 11. 27			21名		
H27. 12. 7			9名		
H27. 12. 17			12名		
H28. 1. 22			15名		
H28. 1. 27			14名		
H28. 2. 25			8名		
H28. 2. 29	9名				
	新人B L S 研修	新規採用 看護職員	100名	1時間40分	<ul style="list-style-type: none"> ・ B L S の実際(演習) ・ A E D の取り扱い(演習)

H27. 7. 15	第一回事故防止講演会	全職員	1273名 ※	1時間	・テーマ：Team STEPPS～チームワークをよくする文化を醸成する～ 講師：亀田総合病院 産科部長 総合周産期母子医療センター長 鈴木真氏
H27. 7. 24	中途採用者研修会	全中途採用 職員	22名	1時間	・安全管理と感染予防対策：戸澤副室長、高木主幹（医療安全管理室）、中村室長、田上看護師（感染制御室）
H27. 8. 11	第一回危機管理研修会	全職員	1255名 ※	1時間	・重大事例報告会：村上室長 ・群馬大学医学部附属病院、東京女子医科大学病院における医療事故について：戸澤副室長 ・特定機能病院に対する集中立入検査について：村上室長
H27. 8. 19	静脈注射Ⅱ部署内指導者研修	静脈注射Ⅰ指導者の認定を受けた者	36名	1時間	・静脈穿刺のための血管のアセスメント（講義） ・静脈穿刺における合併症（講義） ・誤針防止機能付穿刺針の使い方 ・点滴静脈注射の手技テスト
H27. 8. 20					
H27. 8. 21					
H27. 9. 15	医薬品安全管理における研修会（麻薬講習会）	全職員	1291名 ※	1時間	・麻薬の取り扱いについて：木村薬剤師 ・レスキュー自己管理のススメ：外海薬剤師
H27. 9. 30	BLSインストラクター研修	看護師	6名	1時間30分	・看護部BLS研修の目的 ・成人教育について ・看護部BLSコースの流れと指導のポイント
H27. 12. 22			10名		
H28. 3. 22			3名		
9～10月部署にて企画	静脈注射研修Ⅰ	看護師1年目	102名	部署にて企画	・静脈内注射実施における看護師の法的責任（講義） ・静脈注射に必要な知識と技術他（講義） ・側管ワンショット静脈注射（演習） ・翼状針一時点滴（演習）
11月部署にて企画	静脈注射研修Ⅱ	看護師2年目他	95名	部署にて企画	・静脈穿刺のための血管のアセスメント（講義） ・静脈穿刺における合併症 ・点滴静脈注射の穿刺と固定に使用する医療機材（講義） ・点滴静脈注射の実際（演習）
H27. 11. 2	急変対応の看護	看護師2年目	97名	2時間	・部署別シナリオによるシミュレーション研修 ・急変前徴候（キラーシンプトム）、緊急時の対応 （2年目看護師所属の23部署）
H27. 11. 4					
H27. 11. 5					
H27. 11. 10					
H27. 11. 11					
H27. 11. 12					
H27. 11. 16					
H27. 11. 18					
H27. 11. 25					
H27. 11. 26					
H27. 11. 27					
H27. 11. 30	第1回PICC院内講習会	若手医師	6名	2時間	・上腕PICC法を安全かつ確実に行うための手技の基本およびコツを習得する

H27. 12. 10	第二回事故防止講演会	全職員	1363名 ※	1時間	・テーマ：医療事故調査制度について 講師：成田・長谷川法律事務所 弁護士／当院顧問弁護士 成田 清氏
H28. 1. 27	第1回チームSTEPPS学 習会	全職員	29名	1時間	・チーム結成、コミュニケーション、状況モ ニタ、相互支援、リーダーシップの5つのコ ンピテンシーを中心にチームワークをよくす る文化を醸成することを目的とした学習会
H28. 2. 3	中途採用者研修会	全中途採用 職員	25名	1時間	・院内感染予防対策：中村室長、田上看護師 (感染制御室) ・安全管理：小松副室長 ・レポート報告について：高木主幹
H28. 3. 2	第二回危機管理研修会	全職員	1351名 ※	1時間	・患者安全文化とインシデントレポート報告 数との関連（兼松 英資氏（名古屋市立大学 医部）） ・重大事例報告会：村上室長 ・医療安全全国共同行動ワーキング活動報 告：各グループ代表者（1～7G）
H28. 3. 28	第2回PICC院内講習会	若手医師	5名	2時間	・上腕PICC法を安全かつ確実にを行うための手 技の基本およびコツを習得する
合計	21回		8051名 ※		

I. 名古屋市立大学病院院内感染対策のための指針

1 院内感染対策に関する基本的考え方

患者とその家族、職員、委託職員、学生等院内すべての人々を院内感染から守るための効果的予防及び管理を実践する。

手指衛生をはじめとする標準予防策、あるいは必要に応じて感染経路別予防策を追加しての実践や、抗菌薬の適正使用を推進できるよう、医療従事者全員に指導・教育を徹底する。

また最新情報に基づき現行の感染対策を常に評価し改善していく。

2 名古屋市立大学病院における感染を積極的に防止し、院内の衛生管理に万全を期するため、感染対策委員会を置く。【感染対策委員会規約】

3 院内感染対策のための病院職員に対する研修に関する基本方針

(1) 院内感染対策講演会の開催

毎年2回、全職員を対象に院内感染対策の意識向上を図るため講演会を開催する。

(2) 毎年4月に、新規採用教職員に対して院内感染対策に関する研修会を実施する。

(3) 毎年2回、本院への中途採用者に対して院内感染対策に関する研修を行う。

4 感染症の発生状況の報告に関する基本方針

中央臨床検査部にて院内感染を疑わせる病原微生物を検出した場合又は医療現場にて院内感染の発生が疑われる場合には、担当医師及び看護師長へ報告する。報告を受けた担当医師は、感染制御室に対応について指示を受け、必要があれば、感染症発生（診断）時の対応マニュアルに従い迅速に対応する。また、時間外に緊急度の高い院内感染の発生が疑われる場合には、感染制御室員に対応について指示を受ける。

感染制御室は、当該事例について、感染対策委員会委員長（病院長）、感染対策チーム会委員長に報告する。

5 院内感染発生時の対応に関する基本方針

院内感染発生を把握した場合には対応について感染制御室に指示を受ける。感染制御室は、緊急度に応じて対策について感染対策委員会委員長（病院長）、感染対策チーム会委員長に相談し、対策を指示・実施する。病院職員及び関連する所属は、指示に基づいて感染症発生（診断）時の対応マニュアルに従い迅速に対応する。

6 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針

本指針は、患者等からの申請に応じて、閲覧に供する。閲覧を希望する者は、病院長へ申し出ることとし、閲覧場所は医学部管理部病院事務課とする。(受付窓口：医学部管理部病院事務課)

7 その他の院内感染対策の推進のための基本方針は必要に応じて病院長が別に定める。

8 他医療施設職員等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針

本指針は、他の医療機関における感染対策整備の参考等としての申請に応じて、閲覧に供する。閲覧を希望する者は、病院長へ申し出ることとし、閲覧方法は他医療施設職員等の状況に応じ、医学部管理部病院事務課が対応する。

附 則

この指針は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この指針は、平成 19 年 11 月 6 日から施行する。

附 則

この指針は、平成 20 年 10 月 23 日から施行する。

附 則

この指針は、平成 23 年 5 月 17 日から施行する。

附 則

この指針は、平成 27 年 6 月 16 日から施行し、4 月 1 日から適用する。

平成 27 年度 感染対策委員会開催状況

回数・日時	議事
第 1 回 27 年 4 月 28 日	1. 平成 27 年 3 月分微生物分離菌状況報告 2. 感染症・感染対策相談、カンファレンス 3. 平成 27 年 1～3 月分抗菌薬使用状況 4. 平成 26 年度針刺し・切創・体液曝露報告 5. 職員ウイルス肝炎定期検診結果報告書様式変更 6. ICT ニュース第 15 号発行 7. 平成 27 年度第 1 回感染対策講演会開催 8. ボルネオ医療チーム派遣 9. 平成 27 年度感染対策地域連携加算相互ラウンド 10. NCU インフェクションセミナー
第 2 回 27 年 5 月 28 日	1. 平成 27 年度院内感染対策のための指針 2. 平成 27 年 4 月分微生物分離菌状況報告 3. 感染症・感染対策相談、カンファレンス 4. 特定抗菌薬届出制の対象薬剤追加 5. 平成 27 年度ワクチンスケジュール 6. 平成 27 年度第 1 回感染対策講演会開催 7. 平成 27 年度感染管理加算 1 連携施設相互チェック日程 8. NCU インフェクションセミナー
第 3 回 27 年 6 月 25 日	1. MERS 疑い患者来院時の対応 2. デング熱患者来院時、発生時の対応 3. 針刺し・切創による血液・体液曝露時における HIV 予防内服薬の変更 4. 感染管理マニュアル改訂 5. 平成 27 年度手指キャンペーン 6. 平成 27 年 5 月分微生物分離菌状況報告 7. 感染症・感染対策相談、カンファレンス 8. 新規 MRSA 検出数の増加に伴う標準予防策及び接触感染予防策の徹底 9. NCU インフェクションセミナー
第 4 回 27 年 7 月 23 日	1. 平成 27 年 6 月分微生物分離菌状況報告 2. 感染症・感染対策相談、カンファレンス 3. 平成 27 年 4～6 月 抗菌薬使用状況 4. NICU・GCU の MRSA 状況と感染対策 5. 第 1 回感染対策講演会（6 月 25 日開催）出席状況・アンケート結果報告 6. 感染防止対策加算連携活動
第 5 回 27 年 8 月 27 日	1. デング熱対応マニュアル一部改訂 2. 平成 27 年 7 月分微生物分離菌状況報告 3. 感染症・感染対策相談、カンファレンス 4. NICU・GCU の感染対策強化後の MRSA 状況経過 5. ビーフリード使用方法提言後の経過報告 6. 感染防止対策加算連携活動による相互チェック報告

	<ul style="list-style-type: none"> 7. 手指衛生キャンペーンの中間報告と今後の予定 8. ICTニュース発行 9. NCUインフェクションセミナー
<p>第6回 27年9月24日</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 平成27年度職員インフルエンザワクチン接種 2. 感染管理マニュアル制定・改訂 3. バクトロバン軟膏®供給停止 4. ICT委員メンバーについて 5. 8月分微生物分離菌状況報告 6. 感染症・感染対策相談、カンファレンス 7. NICU・GCUのMRSA発生状況と経過 8. 第1回感染対策講演会eラーニング受講結果 9. NCUインフェクションセミナー
<p>第7回 27年10月22日</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 感染管理マニュアル改訂 Ⅲ感染症発生（診断）時の対応 5. アウトブレイク時の対応 2. 9月分微生物分離菌状況報告 3. 感染症・感染対策相談、カンファレンス 4. 7~9月分抗菌薬使用状況 5. 針刺し・切創・体液曝露（上半期） 6. ICTラウンド（上半期）報告 7. NICU・GCUのMRSA発生状況と経過 8. 第2回感染対策講演会の開催 9. NCUインフェクションセミナー 10. 国公立大学感染対策相互チェック
<p>第8回 27年11月26日</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 新型インフルエンザ等対策総合訓練 2. 委託職員における夜間・休日の針刺し・切創時の対応マニュアル 3. 10月分微生物分離菌状況報告について（資料3） 4. 感染症・感染対策相談、カンファレンス 5. NICU・GCUのMRSA発生状況と経過 6. 手指衛生キャンペーン結果報告 7. 第2回感染対策講演会の開催 8. NCUインフェクションセミナーの開催 9. 国公立大学感染対策相互チェックの報告 10. ICTニュース発行
<p>臨時開催 27年12月4日</p>	<p>NICU・GCUにおけるMRSAの感染対策</p>
<p>第9回 27年12月24日</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 新型インフルエンザ等対策訓練結果と課題 2. 不織布による滅菌包装の滅菌有効期限 3. 11月分微生物分離菌状況報告 4. 感染症・感染対策相談、カンファレンス 5. NICU・GCUのMRSAの現状 6. 国公立大学感染対策協議会相互チェック受審結果 7. 医療監視での指摘事項 8. 第2回感染対策講演会の出席状況・アンケート結果

	<ul style="list-style-type: none"> 9. NCUインフェクションセミナー
<p>第10回 28年1月28日</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 28年度職員ウイルス肝炎定期検診・B型肝炎ワクチン接種 2. ICT委員メンバー 3. 12月分微生物分離菌状況報告について 4. 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告 5. 10～12月抗菌薬使用状況について 6. NICU・GCUのMRSAの現状 7. エボラ出血熱の終息宣言 8. NCUインフェクションセミナー 9. 結核患者医療費取扱要領の一部改正
<p>第11回 28年2月25日</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 感染管理マニュアル（改訂案） <ul style="list-style-type: none"> Ⅲ. 感染症発生（診断）時の対応 V-1. 職員のウイルス肝炎定期検診実施要領 V-4. 職員のワクチン接種実施要領 Ⅵ. 針刺し・切創による血液・体液曝露時における対応 2. 1月分微生物分離菌状況報告 3. 感染症・感染対策相談・カンファレンスの報告 4. インフルエンザ発生状況 5. NCUインフェクションセミナー
<p>第12回 28年3月24日</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 感染管理マニュアル改訂 <ul style="list-style-type: none"> V-1. 職員のウイルス肝炎検診実施要領 V-4. 職員のワクチン接種実施要領 Ⅵ. 針刺し・切創による血液・体液曝露時における対応 2. ジカウイルス感染症診療協力医療機関登録およびジカウイルス感染症対策マニュアル 3. 新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく特定接種（医療分野）の登録 4. 2月分微生物分離菌状況報告 5. 平成27年（1～12月）微生物検査報告 6. 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告 7. インフルエンザ発生状況 8. 医療関連サーベイランス報告 9. 第2回感染対策講演会eラーニング受講結果 10. NCUインフェクションセミナー 11. 国公立大学附属病院感染対策協議会ブロック別研修会開催 12. インドネシアジャカルタ医療チーム派遣

① 新しい医療機器の導入時の研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
(例)	2009/6/1 2009/6/3	人工呼吸器の取り扱い方	講義、講義映像の視聴	看護師	100	
1、2	2015/4/1、4/6	ドルニエ ジェニモ	講義・実技	医師	8	泌尿器科
3	2015/4/3	ネーザルハイフロー供給システムF&P850システム	講義・実技	看護師	6	17階北
4	2015/4/7	超音波観測装置	講義・実技	看護師	6	内視鏡室
5	2015/4/22	ベアーハガーアンダーボティブランケット	講義・実技	看護師	26	中央手術部
6	2015/4/22	Ho-YAGレーザー(Medilas H Solvo)	講義・実技	看護師	16	中央手術部
7	2015/5/7	ICG蛍光内視鏡システム	講義・実技	看護師	25	中央手術部
8	2015/5/8	ICG蛍光内視鏡システム	講義・実技	看護師	10	中央手術部
9	2015/5/12	閉鎖式保育器搬送用V-808	講義・実技	医師・看護師	16	NICU・GCU
10	2015/5/14	閉鎖式保育器搬送用V-808	講義・実技	臨床工学技士	4	MEセンター
11	2015/5/21	閉鎖式保育器搬送用V-808	講義・実技	医師・看護師	11	NICU・GCU
12	2015/5/22	人工呼吸器 トリロジーO ₂ plus	講義・実技	看護師	10	14階北
13	2015/5/25	人工呼吸器 トリロジーO ₂ plus	講義・実技	看護師	8	14階北
14	2015/5/28	人工呼吸器 トリロジーO ₂ plus	講義・実技	臨床工学技士	7	MEセンター
15	2015/5/29	閉鎖式保育器搬送用V-808	講義・実技	臨床工学技士	3	MEセンター
16	2015/6/11	心筋保護液供給装置 TRUSYS	実技	臨床工学技士	3	MEセンター
17	2015/6/2	人工呼吸器 トリロジーO ₂ plus	講義・実技	医師・看護師	53	MEセンター
18	2015/6/3	人工呼吸器 トリロジーO ₂ plus	講義・実技	看護師	32	MEセンター

① 新しい医療機器の導入時の研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
19	2015/6/5	人工呼吸器 トリロジーO ₂ plus	講義・実技	看護師・臨床工学技士	39	MEセンター
20	2015/6/8	人工呼吸器 トリロジーO ₂ plus	講義・実技	看護師・リハビリ	60	MEセンター
21	2015/6/9	人工呼吸器 トリロジーO ₂ plus	講義・実技	看護師・臨床工学技士	24	MEセンター
22	2015/6/22	人工呼吸器 トリロジーO ₂ plus	講義・実技	看護師	10	12階北
23	2015/6/23	人工呼吸器 トリロジーO ₂ plus	講義・実技	看護師	7	12階北
24	2015/6/30	12誘導心電計	講義・実技	看護師	4	ICU・CCU
25	2015/6/30	12誘導心電計	講義・実技	医師・臨床検査技師	13	ICU・CCU
26	2015/7/3	体外式ペースメーカ	講義・実技	看護師・臨床工学技士	19	中央手術部
27	2015/7/3	人工心肺装置 S5	実技	臨床工学技士	3	MEセンター
28	2015/7/6	体外式ペースメーカ	講義・実技	看護師・臨床工学技士	10	ICU・CCU
29	2015/7/6	体外式ペースメーカ	講義・実技	看護師・臨床工学技士	9	中央手術部
30	2015/7/6	ドップラー血流量計	講義・実技	看護師	9	中央手術部
31	2015/7/8	人工呼吸器 トリロジーO ₂ plus	講義・実技	医師・看護師	9	17階北
32	2015/7/13	高周波非接地型電気メス セーバージェネクス	講義	看護師	7	救命救急センター
33	2015/7/14	高周波非接地型電気メス セーバージェネクス	講義	看護師	13	救命救急センター
34	2015/7/21	Fibro Scan 502	講義・実技	医師・臨床検査技師	6	中央検査部
35	2015/7/21	Fibroscan 502 Touch	講義・実技	医師・臨床検査技師	4	生理機能検査係
36	2015/7/27	Fibro Scan 502	講義・実技	医師・臨床検査技師	6	中央検査部
37	2015/7/28	トランジェット血流計	講義・実技	看護師・臨床工学技士	16	中央手術部
38	2015/8/4	パルスオキシメータ	講義・実技	看護師	5	9階南北

① 新しい医療機器の導入時の研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
39	2015/8/5	パルスオキシメータ	講義・実技	看護師	6	9階南北
40	2015/8/20	補助循環装置 IABP(CS300)	講義・実技	医師	6	麻酔科
41	2015/8/21	補助循環装置 IABP(CS300)	講義・実技	医師	8	麻酔科
42	2015/8/24	補助循環装置 IABP(CS300)	講義・実技	医師・看護師	8	ICU・CCU
43	2015/9/14	EVIS LUCERA ELITE システム	講義・実技	医師	12	呼吸器・アレルギー・リウマチ内科
44	2015/9/17	血液浄化装置 ACH-Σ	講義・実技	臨床工学技士	6	MEセンター
45	2015/9/29	血液浄化装置 ACH-Σ	講義・実技	看護師	5	ICU・CCU
46	2015/9/29	補助循環装置 IABP(CS300)	講義・実技	臨床工学技士	4	MEセンター
47	2015/10/1	アブソックススマート	講義・実技	看護師	5	9階南
48	2015/10/7	血液浄化装置 ACH-Σ	講義・実技	医師・看護師	19	ICU・CCU
49	2015/10/8	補助循環装置 IABP(CS300)	講義・実技	臨床工学技士	5	MEセンター
50	2015/10/13	血液浄化装置 ACH-Σ	講義・実技	医師・看護師・臨床工学技士	6	人工透析部
51	2015/10/13	血液浄化装置 ACH-Σ	講義・実技	医師	2	麻酔科
52	2015/10/16	VIVO50	講義・実技	看護師	11	9階南
53	2015/10/20	補助循環装置 IABP(CS300)	講義・実技	看護師	5	ICU・CCU
54	2015/10/20	耳鼻咽喉ビデオフコープシステム	講義・実技	医師・療法士	3	リハビリテーション
55	2015/10/20	全自動ファイバースコープ洗浄器	講義・実技	医師・療法士	3	リハビリテーション
56	2015/10/22	手術用顕微鏡LeicaM530OH6	講義・実技	看護師	11	中央手術部
57	2015/10/23	手術用顕微鏡LeicaM530OH6	講義・実技	看護師	4	中央手術部
58	2015/10/26	血液浄化装置 ACH-Σ	講義・実技	看護師	8	ICU・CCU

① 新しい医療機器の導入時の研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
59	2015/11/5	人工呼吸器 V60	講義・実技	看護師	6	15階南
60	2015/11/12	人工呼吸器 V60	講義・実技	看護師	3	15階南
61	2015/11/13	人工呼吸器 トリロジーO ₂ plus	講義・実技	看護師	10	12階南
62	2015/11/16	電気手術器 AEXジェネレータ/アクアマンティス	講義・実技	看護師	8	中央手術部
63	2015/11/17	血液浄化装置 ACH-Σ	講義・実技	医師	3	循環器内科
64	2015/11/17	人工呼吸器 トリロジーO ₂ plus	講義・実技	看護師	12	14階北
65	2015/11/18	手術用ドリル Bien Ain	講義・実技	看護師	18	中央手術部
66	2015/11/19	人工呼吸器 V60	講義・実技	看護師	9	15階南
67	2015/11/19	手術用ドリル Bien Ain	講義・実技	看護師	12	中央手術部
68	2015/11/27	人工呼吸器 V60	講義・実技	看護師	5	15階南
69	2015/11/30	手術用レーザー装置	講義・実技	看護師	14	中央手術部
70	2015/12/15	ハイフローセラピー	講義・実技	看護師	11	NICU・GCU
71	2015/12/21	ハイフローセラピー	講義・実技	看護師	9	NICU・GCU
72	2015/12/21	人工呼吸器 トリロジーO ₂ plus	講義・実技	看護師	9	12階北
73	2016/1/13	人工呼吸器 トリロジーO ₂ plus	講義・実技	看護師	9	17階北
74	2016/1/15	人工呼吸器 VIVO	講義・実技	看護師	9	NICU・GCU
75	2016/1/18	人工呼吸器 VIVO	講義・実技	看護師	8	NICU・GCU
76	2016/3/10	一酸化窒素ガス管理システム アイノフローDS	講義・実技	臨床工学技士	8	MEセンター
77	2016/3/15	一酸化窒素ガス管理システム アイノフローDS	講義・実技	医師	7	麻酔科
78	2016/3/16	一酸化窒素ガス管理システム アイノフローDS	講義・実技	看護師	12	ICU・CCU

① 新しい医療機器の導入時の研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
79	2016/3/16	一酸化窒素ガス管理システム アイノフローDS	講義・実技	医師	7	麻酔科
80	2016/3/22	除細動器(ハートスタートXLプラス)	講義・実技	看護師	15	中央手術部
81	2016/3/23	一酸化窒素ガス管理システム アイノフローDS	講義・実技	看護師	7	ICU・CCU
82	2016/3/24	一酸化窒素ガス管理システム アイノフローDS	講義・実技	医師・臨床工学技士	3	麻酔科
83	2016/3/24	除細動器(ハートスタートXLプラス)	講義・実技	看護師	5	中央手術部
84	2016/3/28	人工呼吸器 トリロジーO ₂ plus	講義・実技	看護師	13	14階北
85	2016/3/29	一酸化窒素ガス管理システム アイノフローDS	講義・実技	医師	3	麻酔科

② 特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
1	2015/4/9	人工呼吸器 トリロジー	講義・実技	医師・看護師	9	16階北
2	2015/4/14	人工呼吸器 VN500	講義・実技	看護師	4	NICU・GCU
3	2015/4/17	閉鎖型保育器(V-2100G)	講義・実技	看護師	6	NICU・GCU
4	2015/4/21	体外式心肺補助装置(ECMO装置)	講義	看護師	8	ICU・CCU
5、6	2015/4/28	高エネルギーX線発生装置(リニアック・トモセラピー) 密封小線源放射線治療装置(RALS)	講義	診療放射線技師	27	中央放射線部
7	2015/5/7	閉鎖型保育器(V-2100G)	講義・実技	看護師	5	NICU・GCU
8	2015/5/20	人工呼吸器 VN500	講義・実技	看護師	3	NICU・GCU
9	2015/5/21	人工呼吸器 e-500	講義・実技	看護師	10	9階南

② 特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
10	2015/5/27	人工呼吸器 サイパップ	講義・実技	看護師	3	NICU・GCU
11	2015/6/11	人工呼吸器 サイパップ	講義・実技	看護師	3	NICU・GCU
12	2015/6/16	人工呼吸器 ベネット840	講義・実技	看護師	6	ICU・CCU
13	2015/6/16	人工呼吸器 エビタ4	講義・実技	看護師	6	ICU・CCU
14	2015/6/16	除細動器	講義・実技	看護師	6	ICU・CCU
15	2015/7/16	人工呼吸器 ベビーログVN500	講義・実技	医師	4	NICU・GCU
16	2015/7/21	ネーザルハイフロー供給システムF&P850システム	講義・実技	看護師	9	11階南
17	2015/8/10	血液浄化装置 DBB73	講義・実技	医師・看護師	6	人工透析部
18	2015/8/10	人工呼吸器 Bipap Vision	講義・実技	看護師	11	11階北
19	2015/8/11	人工呼吸器 Bipap Vision	講義・実技	看護師	6	11階北
20	2015/8/25	人工呼吸器 VN500	講義・実技	看護師	8	NICU・GCU
21	2015/8/31	人工呼吸器 ハミングX	講義・実技	看護師	6	NICU・GCU
22	2015/8/31	ネーザルハイフロー供給システムF&P850システム	講義・実技	看護師	14	14階南
23	2015/8/31	人工呼吸器 ベビーログVN500	講義・実技	看護師	6	NICU・GCU
24	2015/9/2	人工呼吸器 ハイパップビジョン	講義・実技	看護師	11	14階南
25	2015/9/4	人工呼吸器 ハイパップビジョン	講義・実技	看護師	7	13階南
26	2015/9/8	人工呼吸器 VN500	講義・実技	看護師	9	NICU・GCU
27	2015/9/25	人工呼吸器 V300	講義・実技	看護師	15	ICU・CCU
28	2015/9/28	人工呼吸器 SLE5000	講義・実技	看護師	3	NICU・GCU
29	2015/10/19	人工呼吸器 V300	講義・実技	看護師	16	ICU・CCU

② 特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
30	2015/10/22	人工呼吸器 V60	講義・実技	臨床工学技士	7	MEセンター
31	2015/10/29	ネーザルハイフロー供給システムF&P850システム	講義・実技	医師・看護師	11	12階南
32、33	2015/11/17	高エネルギーX線発生装置(リニアック・トモセラピー) 密封小線源放射線治療装置(RALS)	講義	診療放射線技師	25	中央放射線部
34	2015/11/24	補助循環装置 IABP(CS300)	講義・実技	看護師	10	救命救急センター
35	2015/11/25	人工呼吸器 V60	講義・実技	看護師	8	救命救急センター
36	2015/11/27	除細動器 TEC-5631	講義・実技	臨床工学技士	2	MEセンター
37	2015/12/14	人工呼吸器 VN500	講義・実技	看護師	9	NICU・GCU
38	2015/12/28	除細動器 ハートスタートXL+	講義・実技	臨床工学技士	7	MEセンター
39	2016/1/26	補助循環装置 PCPS	講義・実技	看護師	7	救命救急センター
40	2016/2/16	補助循環装置 PCPS	講義・実技	看護師	7	ICU・CCU
41	2016/2/18	人工呼吸器 VIVO50	講義・実技	臨床工学技士	9	MEセンター
42	2016/3/1	人工心肺装置	講義・実技	看護師	14	中央手術部
43	2016/3/7	人工呼吸器 トリロジーO ₂	講義・実技	看護師	11	12階南
44	2016/3/8	補助循環装置 PCPS	講義・実技	看護師	8	救命救急センター
45	2016/3/10	補助循環装置 ECMO	講義・実技	看護師	11	ICU・CCU
46	2016/3/15	補助循環装置 ECMO	講義・実技	看護師	7	ICU・CCU

(注)1 「特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器」とは、①人工心肺装置及び補助循環装置、②人工呼吸器、③血液浄化装置、④除細動装置(AEDを除く)、⑤閉鎖式保育器、⑥診療用高エネルギー放射線発生装置、⑦診療用放射線照射装置です。

③ ①、②以外に実施している研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
1	2015/4/14	看護部新人研修(輸液・シリンジ・モニタ)	講義・実技	看護師	25	MEセンター
2	2015/4/14	看護部新人研修(輸液・シリンジ・モニタ)	講義・実技	看護師	24	MEセンター
3	2015/4/15	看護部新人研修(輸液・シリンジ・モニタ)	講義・実技	看護師	24	MEセンター
4	2015/4/15	看護部新人研修(輸液・シリンジ・モニタ)	講義・実技	看護師	24	MEセンター
5	2015/4/17	開放型保育器 V-505HL	講義・実技	看護師	6	NICU・GCU
6	2015/4/17	開放型保育器 インファウォーマi	講義・実技	看護師	6	NICU・GCU
7	2015/5/7	開放型保育器 インファウォーマi	講義・実技	看護師	5	NICU・GCU
8	2015/5/13	中心静脈留置型経皮的体温調節装置システム	講義・実技	看護師	11	ICU・CCU
9	2015/5/13	中心静脈留置型経皮的体温調節装置システム	講義・実技	医師	9	麻酔科
10	2015/5/14	中心静脈留置型経皮的体温調節装置システム	講義・実技	看護師	7	ICU・CCU
11	2015/5/14	中心静脈留置型経皮的体温調節装置システム	講義・実技	医師	9	麻酔科
12	2015/5/21	経腸栄養ポンプ TOP-A600	講義・実技	看護師	13	ICU・CCU
13	2015/5/22	臨床工学技士(全般)	講義	事務職	37	新規事務職員
14	2015/5/25	十二指腸ビデオスコープ JF/TJF-260V	講義・実技	滅菌担当	7	内視鏡洗浄室
15	2015/6/9	パワーポート(PICC)	講義・実技	看護師	24	11階南
16	2015/6/22	静脈血栓塞栓症予防(SCDシリーズ、および弾性ストッキング)	講義・実技	看護師	33	中央手術部
17	2015/6/26	静脈血栓塞栓症予防(SCDシリーズ、および弾性ストッキング)	講義・実技	看護師	21	中央手術部
18	2015/6/29	レーザー手術装置	講義	看護師	18	中央手術部
19	2015/7/7	黄疸計 JM-105	講義・実技	看護師	12	8階北
20	2015/7/8	MASIMO	講義・実技	看護師	14	救命救急センター

③ ①、②以外に実施している研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
21	2015/7/13	MASMO	講義・実技	看護師	4	救命救急センター
22	2015/7/29	カプノモニター	講義・実技	看護師	17	NICU・GCU
23	2015/8/31	経腸栄養ポンプ カンガルコントロールフィーディングポンプ624型	講義・実技	看護師	10	7階北
24	2015/9/3	経腸栄養ポンプ カンガルコントロールフィーディングポンプ624型	講義・実技	看護師	5	7階北
25	2015/10/6	経腸栄養ポンプ カンガルコントロールフィーディングポンプ624型	講義・実技	看護師	14	13階北
26	2015/10/6	上部消化管スコープ	講義・実技	医師	15	消化器内科
27	2015/10/9	電気メス	講義	看護師	11	中央手術部
28	2015/10/14	経腸栄養ポンプ カンガルJoey	講義・実技	看護師	13	ICU・CCU
29	2015/10/15	経腸栄養ポンプ カンガルJoey	講義・実技	看護師	11	ICU・CCU
30	2015/10/16	スコープ	講義・実技	看護師・臨床検査技師	10	内視鏡センター
31	2015/10/16	経腸栄養ポンプ カンガルJoey	講義・実技	看護師	10	ICU・CCU
32	2015/10/19	小型シリンジポンプ TE-361	講義・実技	医師・看護師	16	8階南
33、34	2015/10/20、21	手術顕微鏡 ライカM5300M6	講義・実技	医師	14	脳神経外科
35	2015/10/29	電気手術器(Aexジェネレータ/アクアマンティス)	講義・実技	看護師	16	中央手術部
36	2015/11/30	汎用超音波画像診断装置サイトライト5	講義・実技	医師	18	医療安全管理室
37	2015/12/7	超音波診断装置	講義・実技	医師	4	産科婦人科
38	2015/12/8	手術用レーザー装置(オサダユニサージ30)	講義・実技	看護師	13	中央手術部
39	2015/12/14	呼気ガス分析装置 FIT-2100	講義・実技	管理栄養士	1	栄養管理係
40	2015/12/16	低体温装置 Arctic Sun	講義・実技	看護師	4	NICU・GCU
41	2015/12/25	加温装置 プレシジョンフロー	講義・実技	看護師	8	NICU・GCU

③ ①、②以外に実施している研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
42	2016/1/8	低体温装置 Arctic Sun	講義・実技	看護師	16	NICU・GCU
43	2016/1/13	低体温装置 Arctic Sun	講義・実技	医師・看護師	14	NICU・GCU
44	2016/2/10	NIP-ネーザルV	講義・実技	看護師	9	14階北
45	2016/2/17	着用型自動除細動器 Life Vest	講義・実技	看護師	12	14階北
46	2016/2/23	ホームAPDシステム ゆめ	講義・実技	看護師	12	14階北
47	2016/2/24	ホームAPDシステム ゆめ	講義・実技	看護師	6	14階北
48	2016/2/25	電気手術器(アムコVIO)	講義・実技	看護師	14	中央手術部
49	2016/2/25	超音波手術器(電気メス)	講義・実技	看護師	14	中央手術部
50	2016/2/26	電気手術器(アムコVIO)	講義・実技	看護師	8	中央手術部
51	2016/2/26	超音波手術器(電気メス)	講義・実技	看護師	8	中央手術部
52	2016/3/11	気管切開チューブ メラフィット	講義・実技	看護師	13	16階北
53	2016/3/28	汎用超音波画像診断装置サイトライト5	講義・実技	医師	19	医療安全管理室
54	2016/3/29	ミニメド620G(インスリンポンプ)	講義・実技	看護師	10	9階南

名古屋市立大学病院個人情報保護管理要領

(目的)

第1条 この要領は、名古屋市立大学病院個人情報保護規程に基づき、名古屋市立大学病院が取得・収集した個人情報について、個人情報の保護及び管理に関する基本的な枠組みを定めることにより、名古屋市立大学病院の適正かつ円滑な運営を図りつつ、患者の権利利益を保護し、もって患者の安全と信頼を確保することを目的とする。

(定義)

第2条 この要領において各条項に掲げる用語の意義は、次の各号に定めるところによる。

- (1) 個人情報 個人情報に関する情報であつて、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により、特定の個人を識別することができるもの（他の情報と照合することにより、特定の個人を識別することができることとなるものを含む。）をいう。ただし、法人その他の団体に関する情報に含まれる当該法人その他の団体の役員に関する情報を除く。
- (2) 個人情報の匿名化 個人情報から、個人を識別する情報を取り除き、必要があれば、代わりにその人と関わりのない符号又は番号を付すこと。
- (3) コンピュータ及び記録媒体 パソコン及びサーバ等のコンピュータの他、フロッピーディスク、USBメモリ、CD-R等のデータ記録媒体並びに紙カルテ等の紙の記録媒体をいう。
- (4) 所属長 次に掲げる者をいう。ただし、その者が欠員である場合には、代理の職にある者とする。
 - ア 診療科部長（ただし、医学研究科において研究の目的で扱う場合には、教授の職にある者）
 - イ 中央部門（医学部管理部を除く）の部長、室長及びセンター長
 - ウ 医学部管理部病院事務課長、病院業務課長及び病院医事課長

(留意事項)

医師（歯科医師を含む。）の所属長

① 教員

i 診療、病院の業務を行う場合の所属長
診療科部長、中央部門の部長等

ii 医学研究科において研究を行う場合の所属長
所属の教授

② 臨床研修医

総合研修センター長

③ 教員、臨床研修医以外の医師（臨床研究医、シニアレジデント等）

診療科所属の場合は診療科部長、中央部門所属の場合は当該部門の部長等

(個人情報の利用)

第3条 職員は、個人情報を利用する場合は、可能な限り匿名化をしなければならない。個人情報を匿名化せずに利用する場合には、以降の全ての条項を遵守しなければならない。

(個人情報の利用範囲)

第4条 個人情報の利用範囲は、別表のとおりとする。別表の範囲を超えて利用する必要がある場合は、患者の同意を得なければならない。

(留意事項)

- ・ 別表に記載されている個人情報の利用範囲については、当該事項を掲示することにより患者が包括的な同意をしているものとみなす。

(個人情報の病院情報ネットワーク外への出力)

第4条の2 職員は、電子カルテに記載された個人情報を利用する場合は、病院情報ネットワーク（以下「ネットワーク」という。）内で行うこととする。ただし、次の各号に定める場合は、個人情報をネットワーク外に出力することができる。

- (1) 患者本人、又は患者の家族に提供する場合
- (2) 別表第3項に掲げる、他の事業者への情報提供を行う場合
- (3) 診療、病院の業務において、ネットワーク外への出力が必要不可欠である場合
- (4) 研究のために必要となる場合
- (5) その他、病院長が必要と認めた場合

(留意事項) 各項の例示

- (1) 処方せん、説明書、同意書、領収書等診療上交付する諸用紙
- (2) 保険請求のために審査機関へ提出するレセプト等
- (3) 当日の受診予約患者の確認のために出力する一覧表等

2 前項ただし書きの場合において、出力する個人情報は必要最小限とし、出力した職員は、当該出力した個人情報を適切に保護・管理しなければならない。

(コンピュータ及び記録媒体の管理)

第5条 所属長は、個人情報が記録されているコンピュータ及び記録媒体について、盗難、紛失（以下「盗難等」という。）に注意し、保管・管理の徹底をしなければならない。

(留意事項)

- ・ 保管に際しては、利用者又は関係者が常駐し、不在時には施錠される場所に管理するとともに、保管状況を把握しておくこと。
- ・ 一層の盗難防止のため、セキュリティワイヤ等による固定をすることが望ましい。

2 職員は、携行するコンピュータ及び記録媒体に個人情報を記録する場合、個人情報の記録は必要最小限とし、認証・暗号化等の対策をしなければならない。

(留意事項)

- ・ 個人情報を大学外へ持ち出す場合は第7条に規定するとおりであるが、大学内であっても個人情報の入ったコンピュータ及び記録媒体を持ち歩く場合はその時点において業務上必要最小限のデータとすること。

(個人の所有するコンピュータ及び記録媒体の利用)

第6条 職員は、個人の所有するコンピュータ及び記録媒体を職務に利用する場合は、所属長の許可を得なければならない。この場合、当該コンピュータ及び記録媒体は、

大学又は病院の保有するものと同様の取り扱いをすること。

(個人情報の大学外への持ち出し)

第7条 職員は、職務上やむを得ず匿名化せずに大学外に持ち出す必要がある場合については、必ず次の各号の対策をしなければならない。

- (1) 所属長の許可を得るとともに、持ち出しの記録をとること。
- (2) 持ち出しを許可された者が個人情報の複製を作成し、所属内で管理すること。
- (3) 盗難等にあわないよう、持ち出しを許可された者が個人情報を常に管理できる状態にしておくなどの対策をすること。
- (4) 盗難等にあった場合でも、第三者への個人情報の漏洩を防ぐため、認証・暗号化等の対策をすること。

(留意事項)

- ・ 「個人情報を常に管理ができる状態」とは、個人情報を持ち歩く場合に車等に放置することなく施錠したかばん等で常時携行し、やむを得ず携帯できない場合は、施錠がなされた十分に安全な場所へ保管することをいう。
- ・ 認証・暗号化等については、OSレベルの認証は最低限のものであり、この他にディスク又はファイル単位の暗号化を行うことが望ましい。

(インターネット機器での利用)

第8条 職員は、職務上やむを得ず医学部LAN等のインターネットの接続機器にて個人情報を利用する必要がある場合については、必ず次の各号の対策をしなければならない。

- (1) ファイアウォール機能の導入の他、OSの最新化及びウイルスチェックソフトの最新化を逐次行うとともに、ファイル交換ソフト等の情報漏洩の恐れの高いソフトウェアを使用しないこと。
- (2) 漏洩にあった場合でも、第三者に個人情報が見られないよう、認証・暗号化等の対策をすること。

(電子メール、文書交換による個人情報の取り扱い)

第8条の2 電子メールを用いる場合には、送信者、受信者以外の個人情報を記載又は添付してはならない。やむを得ず個人情報を送信する必要がある場合には、メール本文に記載せず、暗号化した添付ファイルを用いて送信し、暗号化を解除するキーについては別に受信者に通知する等の対応をしなければならない。

2 個人情報の送付は、原則として文書交換を利用しないこととする。

(留意事項)

- ・ やむをえず文書交換を利用して個人情報を送付する場合には、以下の対応により紛失などのリスクを減らすこと。
 - ① 持ち歩く際にはひとまとめにして袋や箱に入れるなど、誤って落とさないようにすること。
 - ② 個人情報を送付する者が直接文書交換ボックス(病棟・中央診療棟3階)の送付先部署の棚に投函するなど、個人情報の入った文書のありかについて送付者が管理できるようにすること。

(不要となった個人情報の消去)

第 8 条の 3 職員は、ネットワークから出力した個人情報で、業務上必要のなくなった個人情報を速やかにかつ適切に消去しなければならない。ただし、法令その他の規程により保管期限が定められている個人情報については、この限りではない。

(留意事項)

- ・ 特にUSBメモリなど持ち歩くコンピュータ及び記録媒体に保存している個人情報は、利用の必要性がなくなった時点で速やかに消去すること。
- ・ 紙媒体による個人情報の取り扱いについては、次条の留意事項を参照。

(コンピュータ及び記録媒体の廃棄)

第 9 条 職員は、個人情報が記録されているコンピュータ及び記録媒体を、廃棄、売却、返却等により自己又は大学の管理外とする場合には、単にファイルを削除するだけでなく、物理的な破壊若しくはデータ消去ソフトウェアの利用等により、第三者への個人情報の漏洩をしないための対策を講じなければならない。

(留意事項)

- ・ コンピュータの物理的な破壊をする場合には、ディスク装置自体を確実に破壊すること。
- ・ 紙媒体を廃棄する場合には、機密文書の廃棄場所へ確実に廃棄すること。

(連絡体制)

第 10 条 所属長は、盗難等により、第三者への個人情報の漏洩の恐れがある場合には、直ちに、病院長並びに個人情報運用責任者に対して報告をしなければならない。

(留意事項)

- ・ 報告の窓口は、リスクマネジメントという観点から医療安全管理室とする。

(個人情報保護研修)

第 11 条 職員は、診療情報管理部の開催する個人情報保護研修を受けなければならない。

- 2 システムの管理者並びに運用責任者は、個人情報保護研修を受けない職員に対して、システムの利用を不許可又は停止させることができる。

(教育)

第 12 条 所属長は、職員に対し、個人情報の保護に関する教育をしなければならない。

(処分)

第 13 条 病院長は、この要領に違反した者に対して、本院の個人情報の利用を禁止する等の必要な処分を行うことができる。

附 則

この要領は、平成 19 年 2 月 6 日から施行する。

(施行期日)

この要領は、平成 19 年 11 月 16 日から施行する。

(施行期日)

この要領は、平成21年7月7日から施行する。

(施行期日)

この要領は、平成24年9月4日から施行する。

(施行期日)

この要領は、平成25年11月5日から施行する。

(施行期日)

この要領は、平成27年6月16日から施行し、同年4月1日より適用する。

別表（個人情報利用範囲）

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 本院における利用<ol style="list-style-type: none">(1) 患者本人が受ける医療サービス(2) 医療保険事務(3) 患者に関係する管理運営事務
(入退院等の病棟管理、会計・経理、医療事故の報告、医療サービスの向上)(4) 医療サービスや事務の維持・改善のための基礎資料2 本院及び名古屋市立大学での利用<ol style="list-style-type: none">(1) 教育・実習(2) 研究活動3 他の事業者への情報提供<ol style="list-style-type: none">(1) 他の病院、診療所、助産所、薬局、訪問看護ステーション、介護サービス事業者等との連携(2) 他の医療機関等からの照会への回答(3) 患者の診療等にあたり、外部の医師等の意見・助言を求める場合(4) 検体検査業務の委託その他の業務委託(5) 患者の家族への病状説明(6) 医療保険事務（保険事務の委託、審査支払機関へのレセプトの提出）(7) 審査支払機関又は保険者からの照会への回答(8) 関係法令等に基づく行政機関及び司法機関等への提出等(9) 関係法令等に基づき、事業者等からの委託を受けて健康診断を行った場合における事業者等へのその結果通知(10) 公衆衛生の向上又は児童の健全な育成の推進のための関係機関への情報提供（個人情報の保護に関する法律第23条第1項第3号の範囲に限る）(11) 医師賠償責任保険等に係る医療に関する専門の団体、保険会社等への相談又は届出等(12) 本院の管理運営事務のうち、外部監査機関への情報提供 |
|--|

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人名古屋大学
総長 松尾 清一

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 医療安全管理責任者を配置するための予定措置

現在、医療安全・感染対策担当の副病院長が医療安全・医薬品安全及び医療機器安全の管理業務を行っているため、その者をもって充てることとし、その趣旨は規程上明記する。(本年 9 月末までに改正予定)

2. 医薬品安全管理責任者の活動を充実するための予定措置

(ア)「医薬品情報の整理、周知及び周知状況の確認の徹底」に対する対応

従前から、医薬品情報は整理した上で薬事委員会月例報告として月 1 回院内へ周知している。周知状況の確認については、昨年 8 月から各診療科の薬事委員が周知完了報告を薬剤部薬品情報室に提出することにより行うこととした。また、本年 6 月から薬事委員会にて周知完了報告状況を報告することとした。これらの手順については、本年 9 月に「医薬品の安全使用のための業務手順書」に追記し、明確化する予定である。

(イ)「適応外、禁忌等の処方に係る確認及び必要な指導」に対する対応

(適応外)

従前から、適応外については薬品情報室が治験審査委員会で承認した適応外使用医薬品を「適応外投与(承認)一覧」として部内に配信し情報を共有している。薬剤師は処方監査時に適応外使用を把握した場合は、患者への説明及びカルテへの記載が必要であること、治験審査委員会への申請が必要であることを医師に指導して記録を残している。

(禁忌等)

従前から、禁忌処方をチェックするシステムは薬剤部門システム上にあり、処方せんの下部にアラートが印字されるようになっている。薬剤師は処方監査時にこのアラート情報を確認し、個別に医師へ連絡し、当該医師の対応方針を確認した後に記録を残している。

これらの手順については、本年 9 月中に「医薬品の安全使用のための業務手順書」に追記し、明確化する予定である。

(ウ)「医薬品安全管理責任者による確認と指導」に対する対応

医薬品安全管理責任者は、薬事委員会月例報告の周知完了報告状況及び適応外、禁忌の処方時等の把握状況を確認し、把握が不十分であると思われる診療科については診療科長に注意喚起する。

3. 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置するための予定措置

本院に設置しているインフォームドコンセント委員会委員長をもって充てることを決定している。(平成 28 年 10 月から配置)

4. 説明の実施に必要な方法に関する規程を作成するための予定措置

本院では、説明の実施に必要な方法に関する規程に相当するものとして、「インフォームドコンセント (IC) マニュアル」が既に制定されている。

5. 診療録等の管理に関する責任者を配置するための予定措置

病院情報管理システム (電子カルテ) 運用責任者であるメディカル IT センター長 (医師) をもって充てることとし、その趣旨は規程上明記する。(本年 9 月末までに関係規程を改正する予定)

6. 規則第 9 条の 23 第 1 項第 10 号に規定する医療に係る安全管理に資する措置を実施するための予定措置

死亡症例については、各診療科から全死亡患者の「死亡診断書」を医療の質・安全管理部へ提出させ、同部において「退院サマリー」と併せて内容を確認・検討する。また、死亡診断書提出状況の確認として、死亡退院リストと突合し、死亡症例報告の漏れがないか定期的に確認を行う。以上について、本年 9 月末までに体制を整備し、10 月から実施する。

死亡以外の症例については、医療に係る安全管理のための指針等により、既に報告する基準及び方法等が定められており、これに基づき行うこととする。

死亡症例等の報告実施状況及び確認結果については、従前より管理者が出席する医療の質向上と安全推進委員会で報告することとなっている。

7. 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口を設置するための予定措置

従来から、大学として公益通報窓口を開設しており、当該窓口をもって充てる。

8. 医療安全管理部門による医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業者の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置

(ア) 医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握

年間1万件以上のインシデントレポートが提出されており、全てのレポートを複数の医療スタッフがそれぞれチェックして、内容によっては各種検討会やWGで検証し、業務改善に結び付けている。その他、以下4項目については医療安全に資する診療内容として定期的にモニタリングしており、これを継続する。

- ① 放射線科医により読影されたレポートの検査依頼医の確認率
- ② 入院患者のリストバンド装着率
- ③ 影響度レベル2以上の患者誤認インシデント件数
- ④ 入院時の転倒転落アセスメント実施率

(イ) 従業者の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施

従前より、全職員及び業務委託先社員の医療安全に関する研修の受講状況を把握し、未受講者にはDVD研修又はe-learning研修の受講を促すとともに、研修実施後は研修内容に関する確認テストを実施して理解度を確認しており、これを継続する。

9. 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

既存の高難度新規医療技術の提供の適否等について審査している組織を基礎にして、体制の見直しを行い、平成29年3月までに部門を設置する予定。

10. 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

現在、高難度新規医療技術の提供の適否等を審査するための手術手技専門審査委員会が設けられているが、平成29年3月までに関係規程の一部改正を行い、必要事項を明記する予定。

11. 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

未承認新規医薬品等の使用条件、使用の適否等について審査している既存の組織を基礎にして、体制の見直しを行い、平成29年3月までに部門を設置する予定。

12. 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

平成 29 年 3 月までに、既存の治験審査委員会等の規程の一部改正及び新たに部門に関する規程を制定し、必要事項を明記する予定。

13. 監査委員会を設置するための予定措置

関係規程を整備し、外部委員 3 名を含む監査委員会を設置する。(本年 12 月末完了予定)

14. 他の特定機能病院の管理者との連携による立入り及び技術的助言を遂行するための予定措置

立入り及び受入れについては、厚生労働省から今後示される内容等を踏まえながら今年度中に決定する予定。

15. 職員研修を実施するための予定措置

現在実施している集合型研修、DVD 研修、e-learning 研修を継続し、既に行っている研修実施後の学習効果測定機能を強化する。また、研修内容を見直し、必要な項目を追加する。(今年度中に実施)

16. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

国立大学附属病院長会議で検討中であり、それを踏まえて対応する予定。(平成 29 年 9 月までに検討)

17. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（7）名，専任（1）名，兼任（ ）名
うち医師：専従（2）名，専任（1）名，兼任（ ）名
うち薬剤師：専従（1）名，専任（ ）名，兼任（ ）名
うち看護師：専従（4）名，専任（ ）名，兼任（ ）名

18. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

上記 17 のとおり，すでに配置済。